

女川原子力発電所 環境放射能調査結果(案)

令和 7 年度第 2 四半期

目 次

1	環境モニタリングの概要	1
(1)	調査実施期間	1
(2)	調査担当機関	1
(3)	調査項目	1
2	環境モニタリングの結果	3
(1)	原子力発電所からの予期しない放出の監視	3
ア	モニタリングステーションにおけるNaI(Tl)検出器による 空間ガンマ線量率	3
イ	海水（放水）中の全ガンマ線計数率	3
ウ	ダストモニタによる大気中の放射性物質の濃度	4
(2)	周辺環境の保全の確認	1 4
ア	電離箱検出器による空間ガンマ線量率	1 4
イ	放射性物質の降下量	1 4
ウ	環境試料の放射性核種濃度	1 4

資 料

1	調査地点	2 8
2	測定方法及び測定機器等	3 2
(1)	測定方法及び測定機器	3 2
(2)	検出下限値、数値及びトレンドグラフの表し方	3 6
3	測定結果	3 7
(1)	モニタリングステーションにおける空間ガンマ線量率測定結果	3 7
(2)	海水（放水）中の全ガンマ線計数率測定結果	7 0
(3)	ダストモニタによる大気中の放射性物質の濃度	7 3
(4)	空間ガンマ線積算線量測定結果	7 4
(5)	移動観測車による空間ガンマ線量率測定結果	7 6
(6)	環境試料の核種分析結果	7 8
ア	ゲルマニウム半導体検出器による分析結果	7 8
イ	Sr（ストロンチウム）-90の分析結果	8 4
ウ	H-3（トリチウム）の分析結果	8 4
4	女川原子力発電所の運転状況	8 5
(1)	1号機の廃止措置の状況	8 5
(2)	2号機の運転状況	8 5
(3)	3号機の運転状況	8 6
(4)	放射性廃棄物の管理状況	8 7
(5)	モニタリングポスト測定結果	8 8

1 環境モニタリングの概要

女川原子力発電所環境放射能測定基本計画及び同実施計画に基づき、令和7年度第2四半期に実施した環境モニタリングの概要は、以下のとおりである。

(1) 調査実施期間

令和7年7月から令和7年9月まで

(2) 調査担当機関

	調査担当機関
宮 城 県	環境放射線監視センター
東北電力(株)	女川原子力発電所

(3) 調査項目

東北電力(株)女川原子力発電所から周辺地域への予期しない放射性物質の放出を監視するため、周辺11か所に設置したモニタリングステーションにおいて空間ガンマ線量率を、同発電所放水口付近3か所に設置した放水口モニターにより海水(放水)中の全ガンマ線計数率を、周辺2か所に設置したダストモニタにより大気中の放射性物質の濃度を、それぞれ連続で測定した。

また、周辺地域における放射性降下物の状況のほか、人工放射性核種の放射能濃度の推移を把握し、同発電所の運転に伴う環境への放射能の影響の有無を評価するため、各種環境試料について核種分析を行った。

なお、評価にあたっては、原則として原子力発電所から周辺環境へ放出されるおそれのある核種のうち女川原子力発電所環境放射能測定基本計画における環境放射能評価方法において規定する人工放射性核種(以下「対象核種」という。)を対象として行う。

表－1に令和7年度第2四半期の調査実績を示す。

表－１ 令和７年度第２四半期の調査実績*1

調 査 対 象	検出器または試料名			宮城県		東北電力		合 計		
				地 点 数	測定頻度 または 試 料 数	地 点 数	測定頻度 または 試 料 数	地 点 数	測定頻度 または 試 料 数	
空 間 ガンマ 線	線 量 率	モニタリン グステーシ ョン(MS)	N a I	7	連続	4	連続	1 1	連続	
			電離箱	7	連続	4	連続	1 1	連続	
		広域 MS	電離箱	1 0	連続			1 0	連続	
		移動観測車	N a I	2 4	1 回	1 7	1 回	4 1	各 1 回	
	積 算 線 量		R P L D ^{*2}	1 9	1 回	1 3	1 回	3 2	各 1 回	
海水（放水）中の全ガン マ線計数率			N a I			3	連続	3	連続	
大気中 の放射 性物質	全アルファ放射 能濃度		Z n S	2	連続			2	連続	
	全ベータ放射能 濃度		プラスチック							
降 下 物			月 間	2	6	2	6	4	1 2	
			四半期間	3	3	2	2	5	5	
環 境 放 射 能	陸 上 試 料	農 産 物								
		陸 水			2	2	1	1	3	3
		陸 土								
		浮 遊 じ ん			2	6	4	8	6	1 4
		指 標 植 物			2	2	2	2	4	4
	海 洋 試 料	魚 介 類			1	1	2	2	3	3
		海 藻								
		海水(共沈法)					2	2	2	2
		海水(迅速法) ^{*3}			1	2	(1)	1	1 (1)	3
		海 底 土					2	2	2	2
		指標海産物(灰化法)			3	3	4	4	7	7
		指標海産物(迅速法) ^{*3}			(3)	3	(3)	3	(6)	6
降下物及び環境試料数合計				1 6	2 8	2 1	3 3	3 7	6 1	

*1 対照地点を含む。

*2 RPLDは蛍光ガラス線量計のことをいう。

*3 共沈法または灰化法に合わせて実施している場合の地点数はカッコ書きとし、合計に含めない。

2 環境モニタリングの結果

本期間中の環境モニタリングの結果、周辺 11 か所に設置したモニタリングステーションにおける空間ガンマ線量率、発電所放水口付近 3 か所に設置した放水口モニターによる海水（放水）中の全ガンマ線計数率及び周辺 2 か所に設置したダストモニタによる大気中の放射性物質の濃度において、異常な値は観測されなかった。

女川原子力発電所周辺地域における降下物及び環境試料からは、対象核種のうちCs（セシウム）-137及びSr（ストロンチウム）-90が検出されたが、他の対象核種については検出されなかった。

以上の環境モニタリングの結果並びに女川原子力発電所の運転状況及び放射性廃棄物の管理状況から判断して、女川原子力発電所に起因する環境への影響は認められず、検出された人工放射性核種は東京電力(株)福島第一原子力発電所事故（以下「福島第一原発事故」という。）と過去の核実験の影響と考えられた。

（１）原子力発電所からの予期しない放出の監視

ア モニタリングステーションにおけるNaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率

原子力発電所からの予期せぬ放射性物質の放出を監視するため、周辺 11 か所のモニタリングステーションで、NaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率を連続で測定した。その結果を図－２－１から図－２－１１に示す。

現在推移している線量率には、福島第一原発事故により地表面等に沈着した人工放射性核種の影響が認められる。また、一時的な線量率の上昇が観測されているが、これは主に降水による天然放射性核種の降下の影響と考えられ、女川原子力発電所に起因する異常な線量率の上昇は認められなかった。

イ 海水（放水）中の全ガンマ線計数率

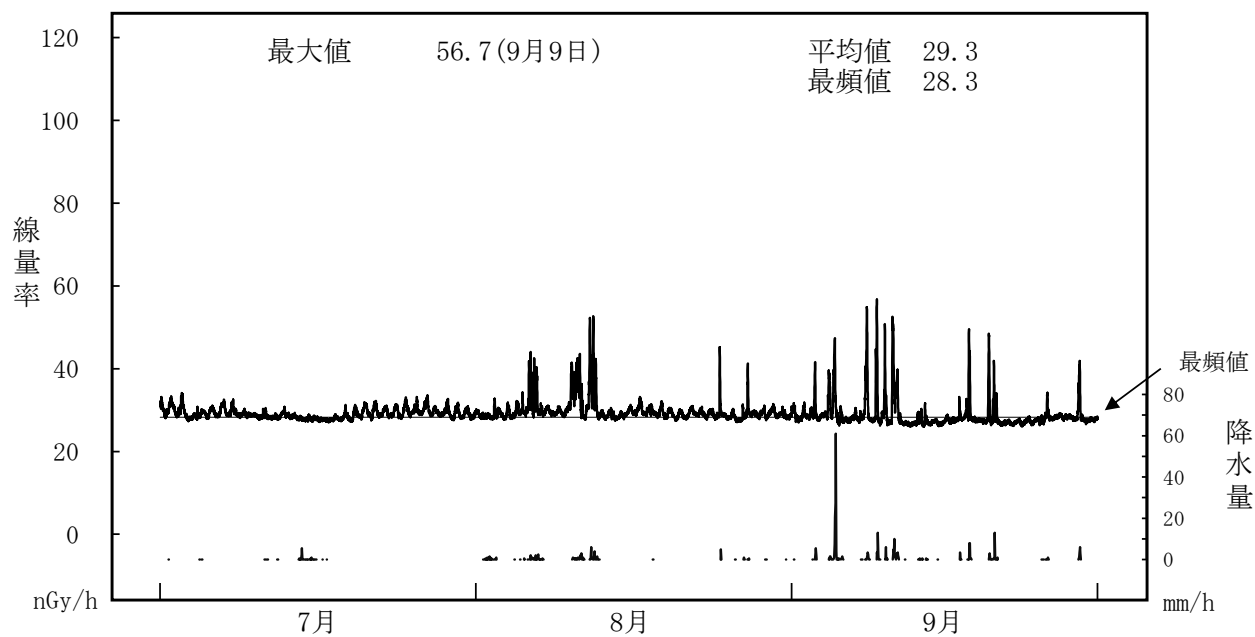
放水口付近の 3 か所の放水口モニターで海水（放水）中の全ガンマ線計数率を連続で測定した。その結果を図－２－１２から図－２－１５に示す。

海水（放水）中の全ガンマ線計数率の変動は、降水及び海象条件他の要因による天然放射性核種の濃度の変動によるものであり、女川原子力発電所に起因する異常な計数率の上昇は認められなかった。

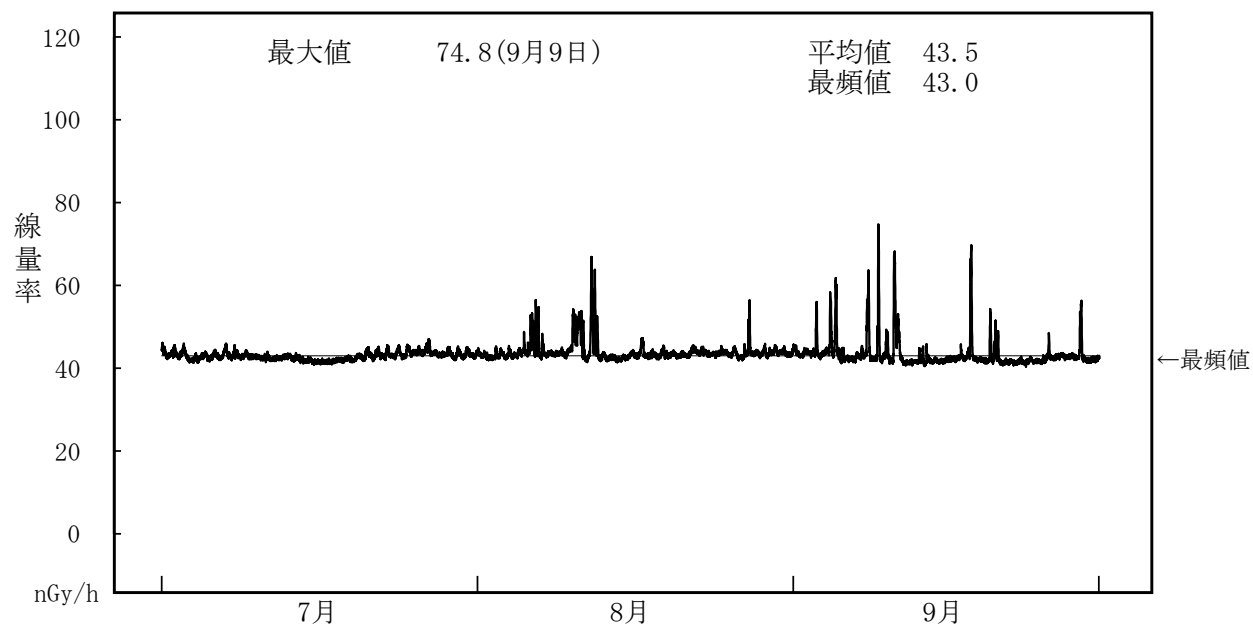
ウ ダストモニタによる大気中の放射性物質の濃度

原子力発電所からの予期せぬ放射性物質の放出を監視するため、周辺 2 か所のモニタリングステーションに設置したダストモニタにより、大気浮遊じんを連続で採取及び測定した。その結果を図－2－16 から図－2－17 に示す。

放射性物質の濃度の変動は、大気中の天然放射性核種の濃度の変動によるものであり、女川原子力発電所に起因する異常な放射性物質の濃度の上昇は認められなかった。

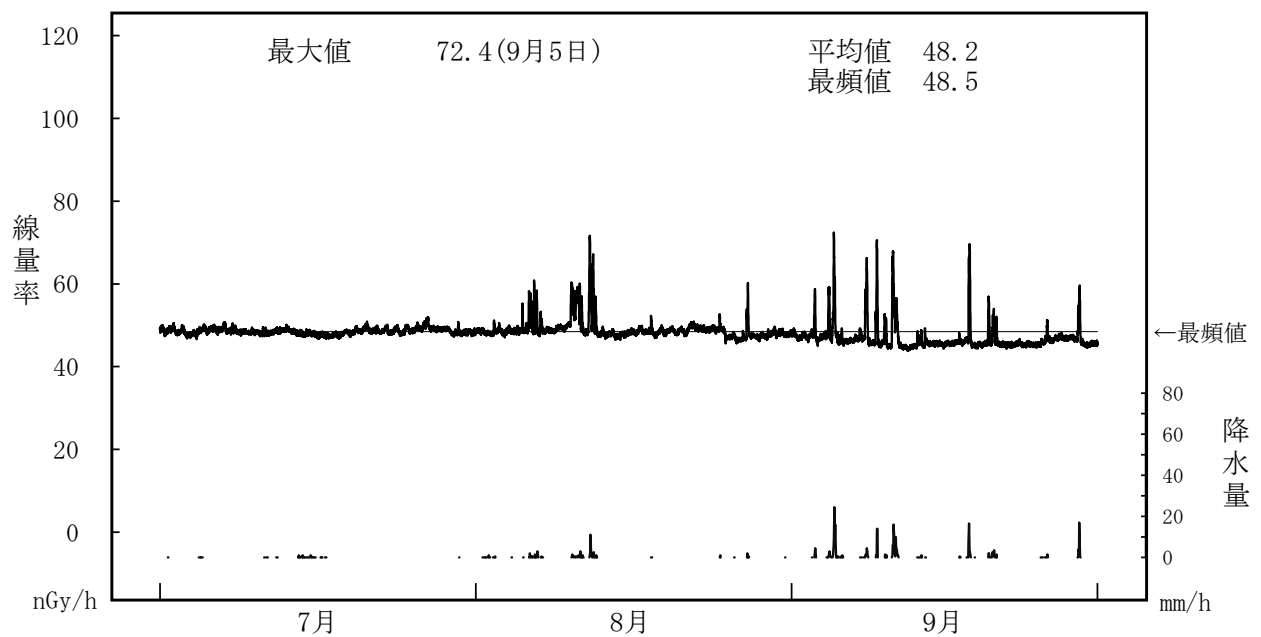


図－２－１ NaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率監視結果（女川局）



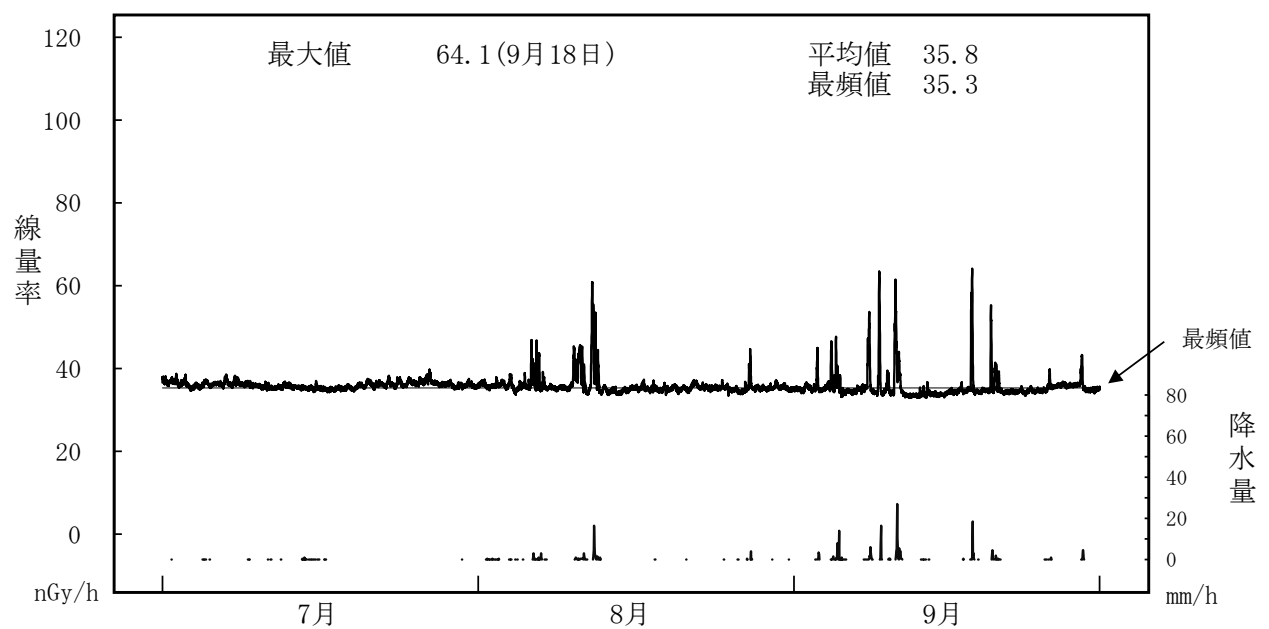
図－２－２ NaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率監視結果（飯子浜局）

令和7年度



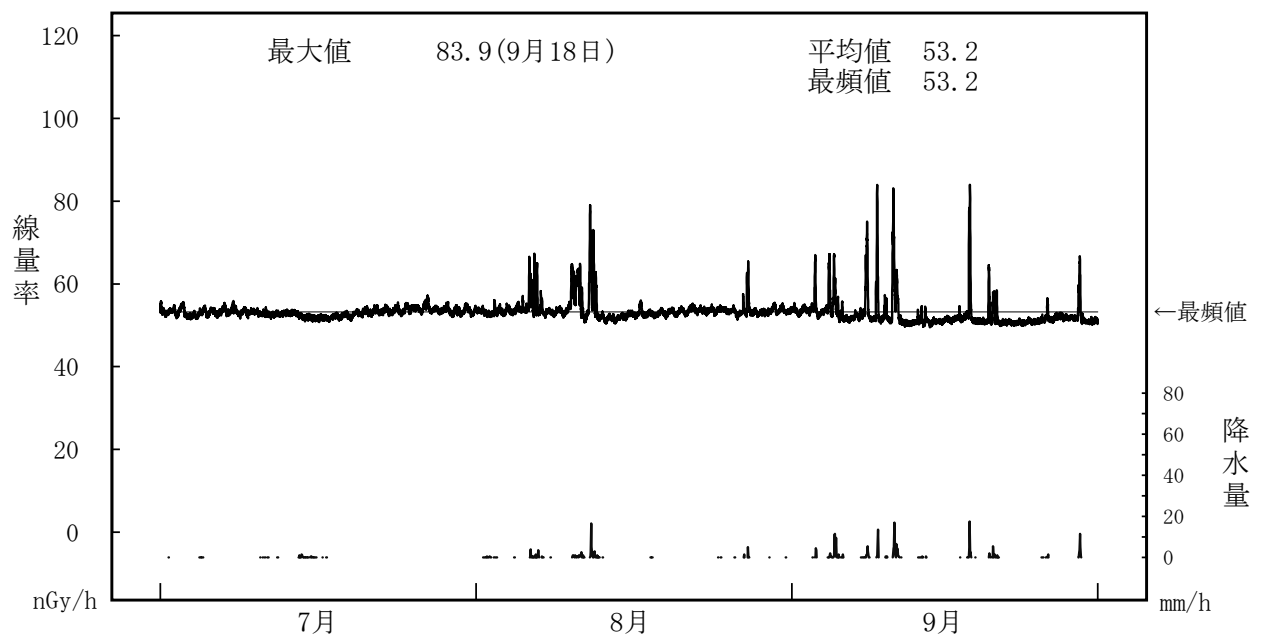
図－２－３ NaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率監視結果（小屋取局）

（注）8月下旬以降の線量率のベースラインの低下は、局舎修繕工事と、周辺土壌中の水分量増加による影響と考えられる。

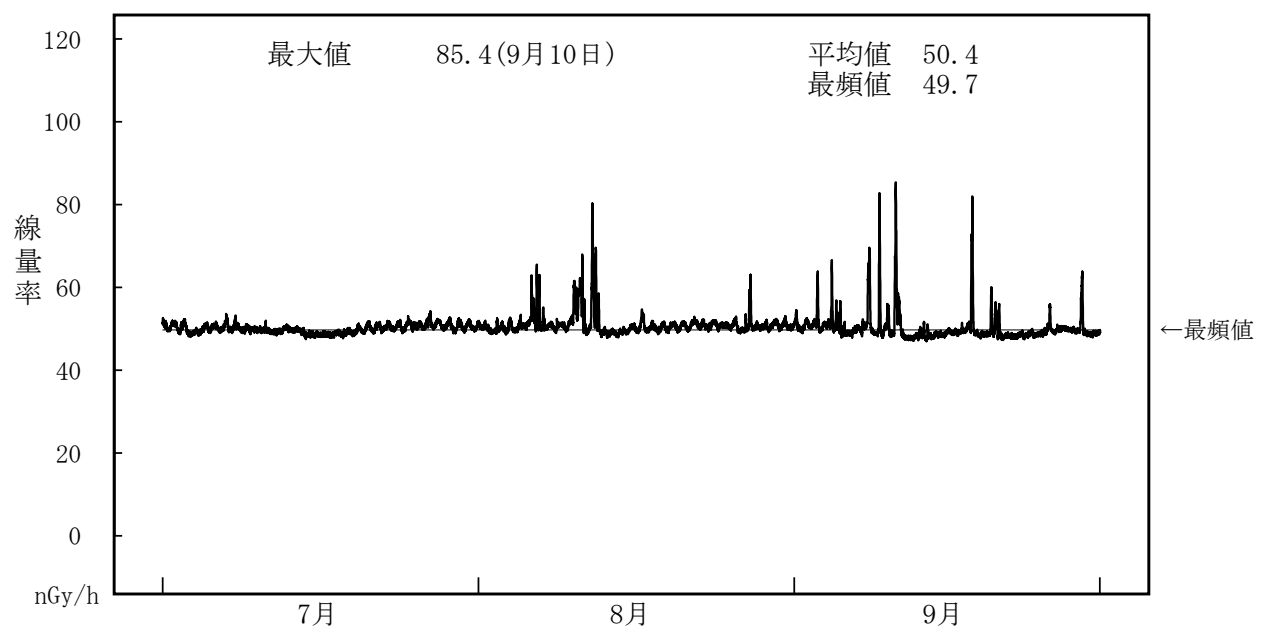


図－２－４ NaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率監視結果（寄磯局）

令和7年度

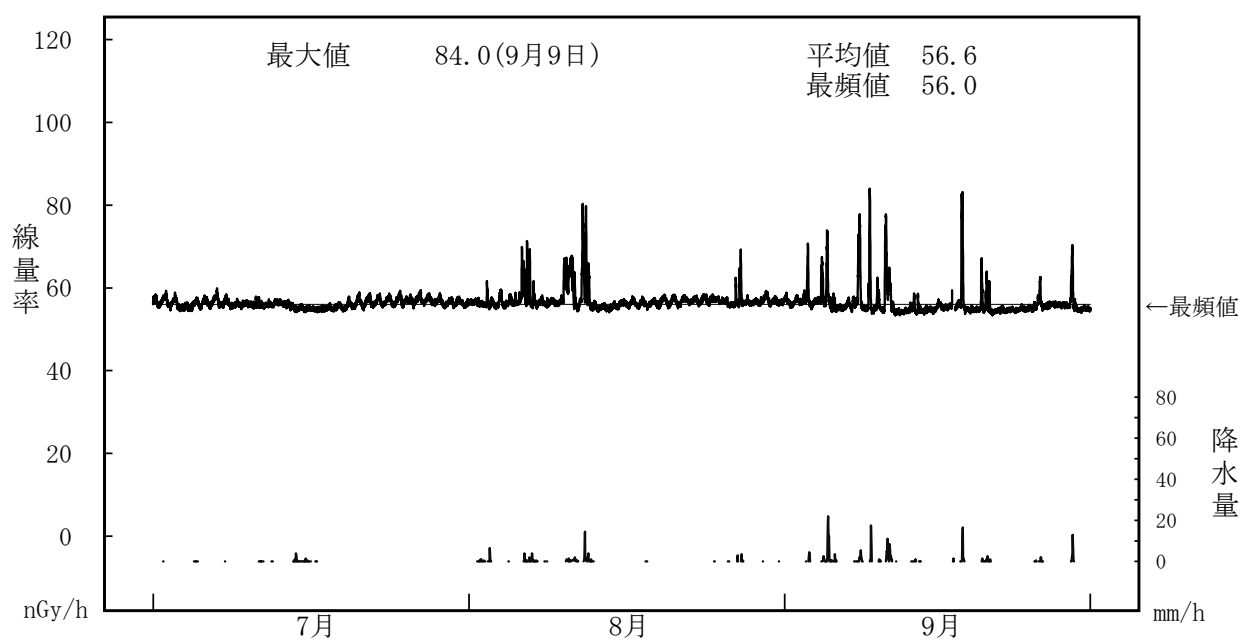


図－２－５ NaI (Tl) 検出器による空間ガンマ線量率監視結果（鮫浦局）



図－２－６ NaI (Tl) 検出器による空間ガンマ線量率監視結果（谷川局）

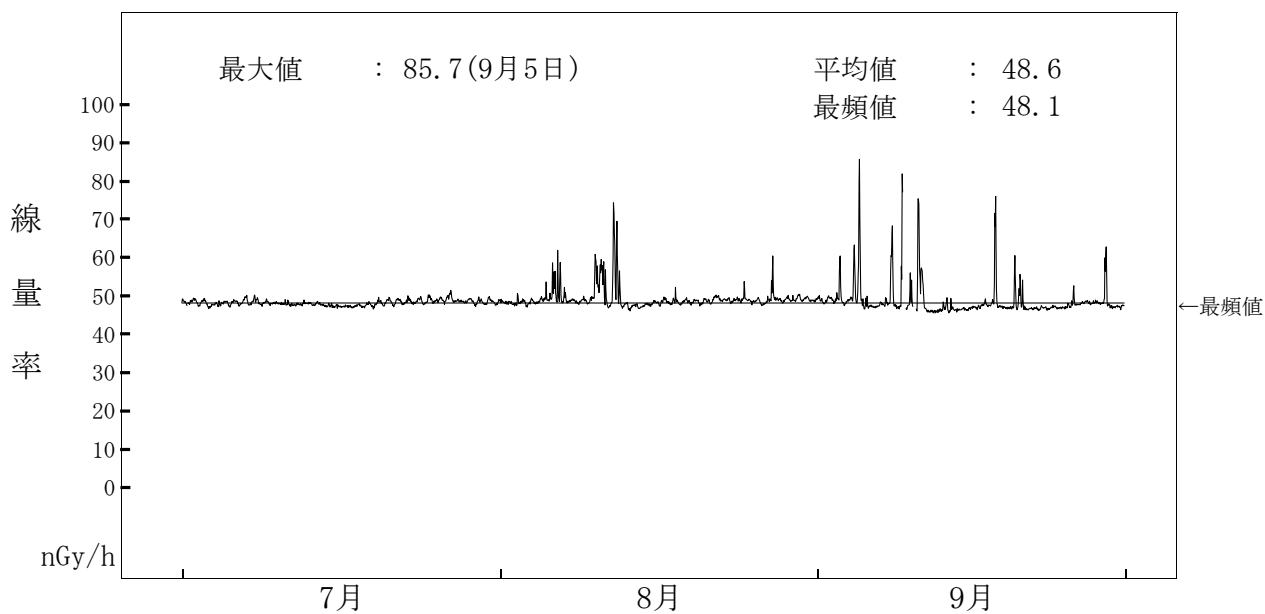
令和7年度



図－２－７ NaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率監視結果（荻浜局）

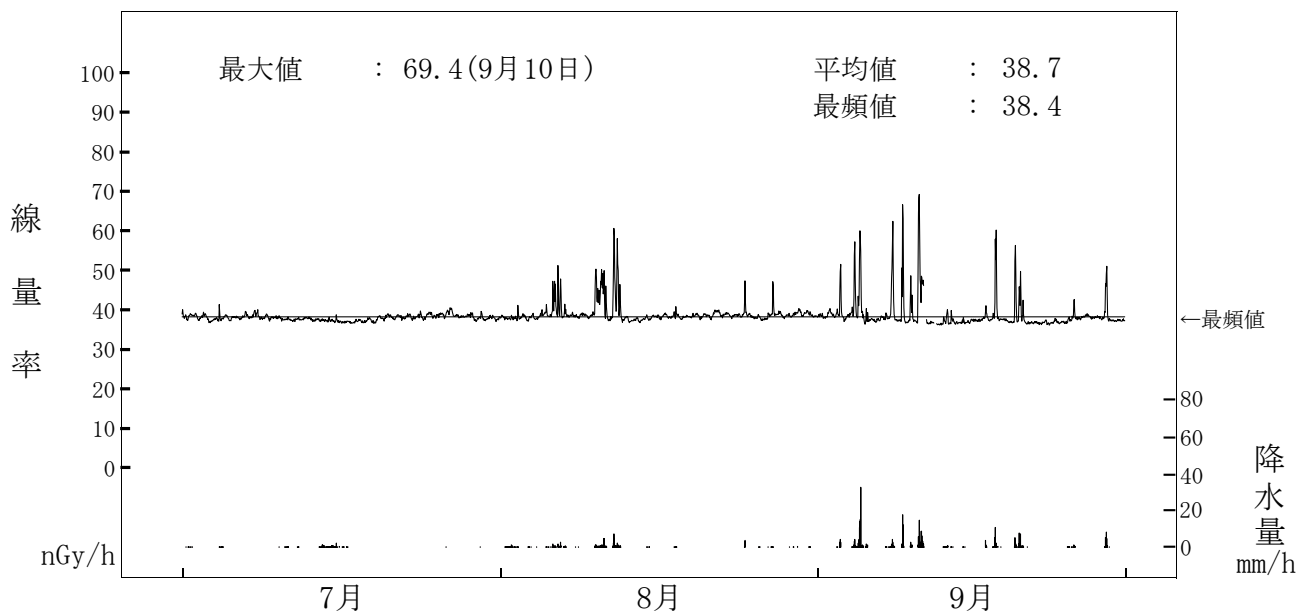
（注）9月17日の欠測は、測定方法の改良を目的とした線源照射試験によるものである。

令和7年度



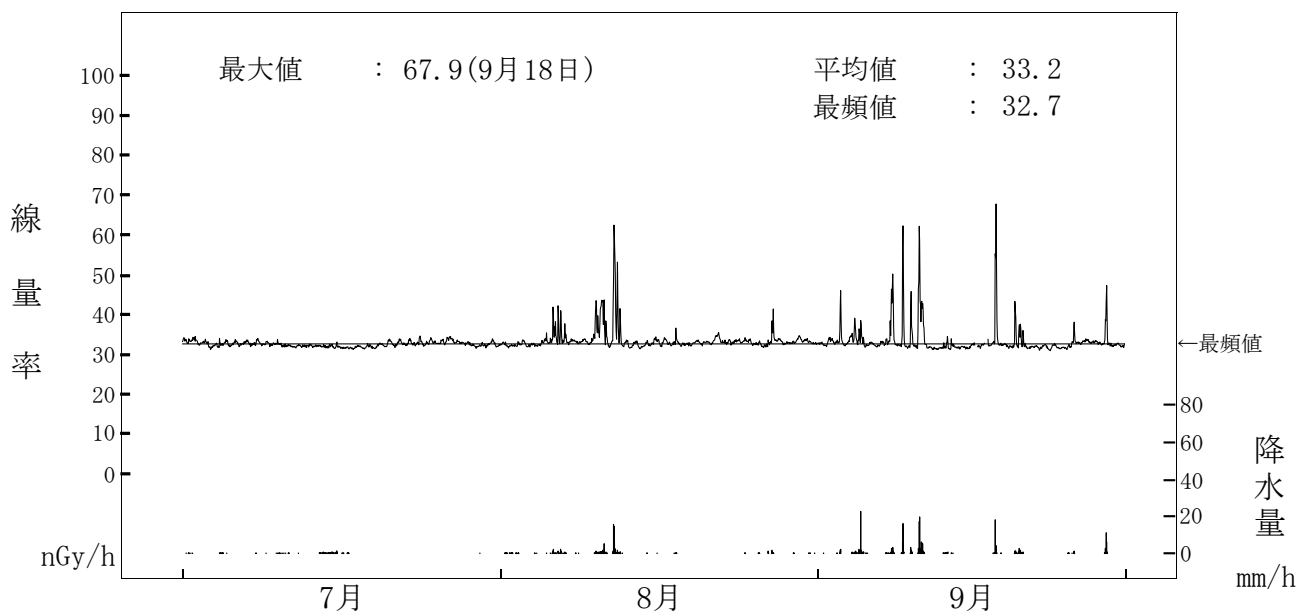
図－２－８ NaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率監視結果（塚浜局）

（注） 9月9日及び9月10日の欠測は、定期点検によるものである。



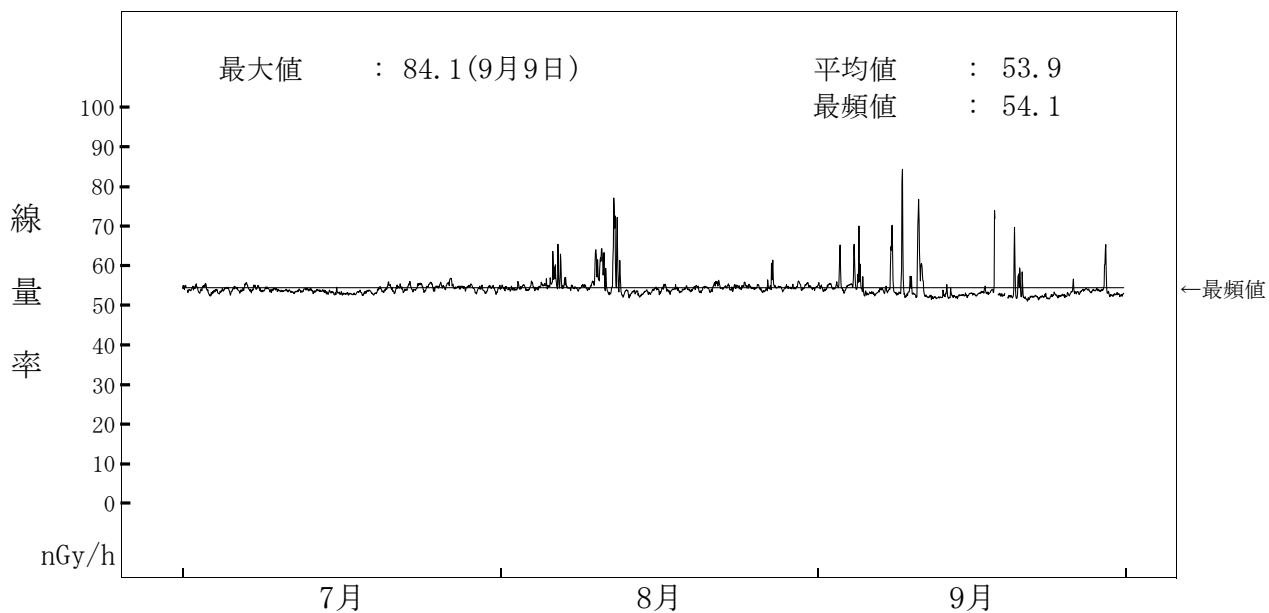
図－２－９ NaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率監視結果（寺間局）

（注） 9月11日、9月12日及び9月18日の欠測は、定期点検によるものである。



図－２－１０ NaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率監視結果（江島局）

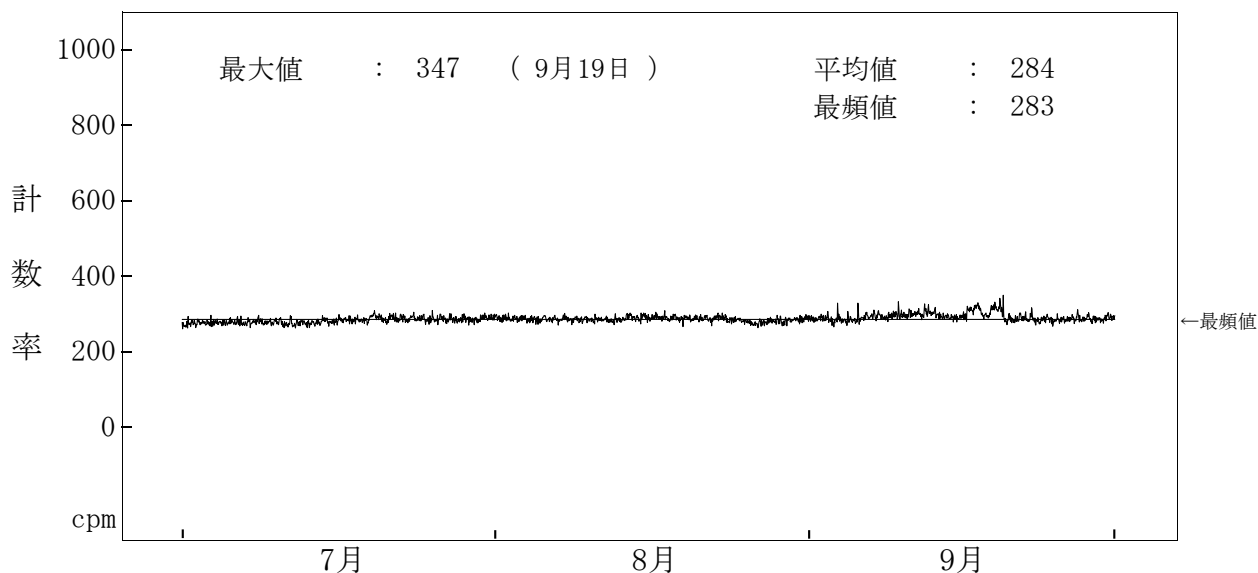
（注） 9月16日及び9月17日の欠測は、定期点検によるものである。



図－２－１１ NaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率監視結果（前網局）

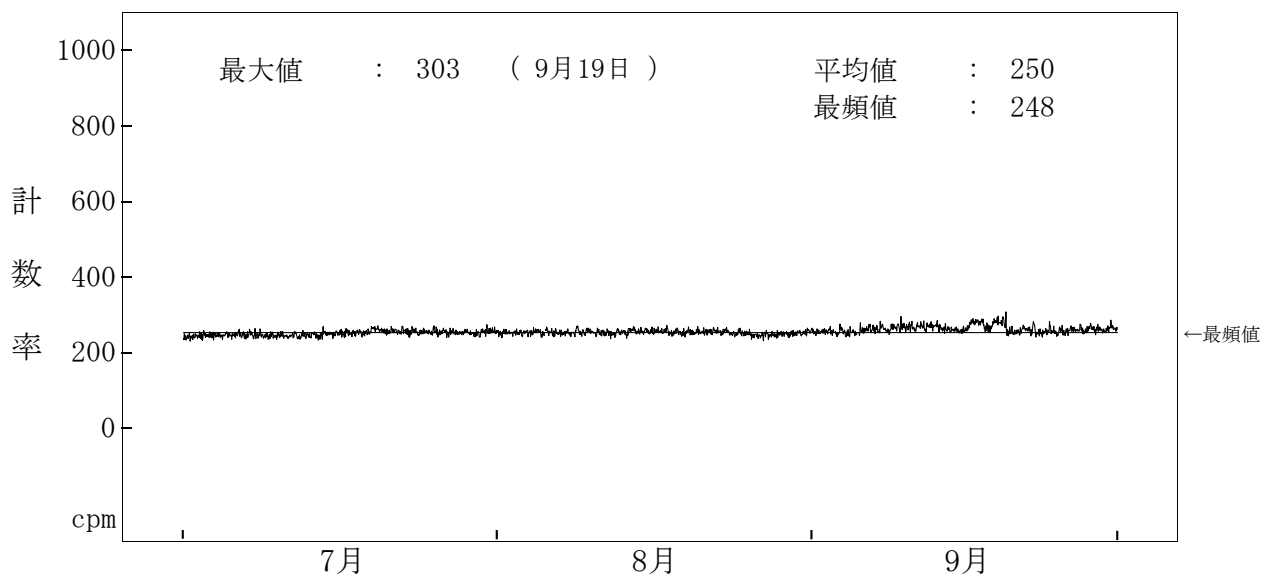
（注） 7月1日、9月18日及び9月19日の欠測は、定期点検によるものである。

令和7年度



図－２－１２ 海水(放水)中の全ガンマ線計数率監視結果(1号機放水口モニター(A))

(注) 9月3日～19日の計数率の上昇は、定期点検のため海水ポンプの流量が低下したことにより、放水口モニターを設置している放水立坑内上層部にある天然放射性核種を多く含む淡水層の影響を受けやすくなったことによるものと推定された。

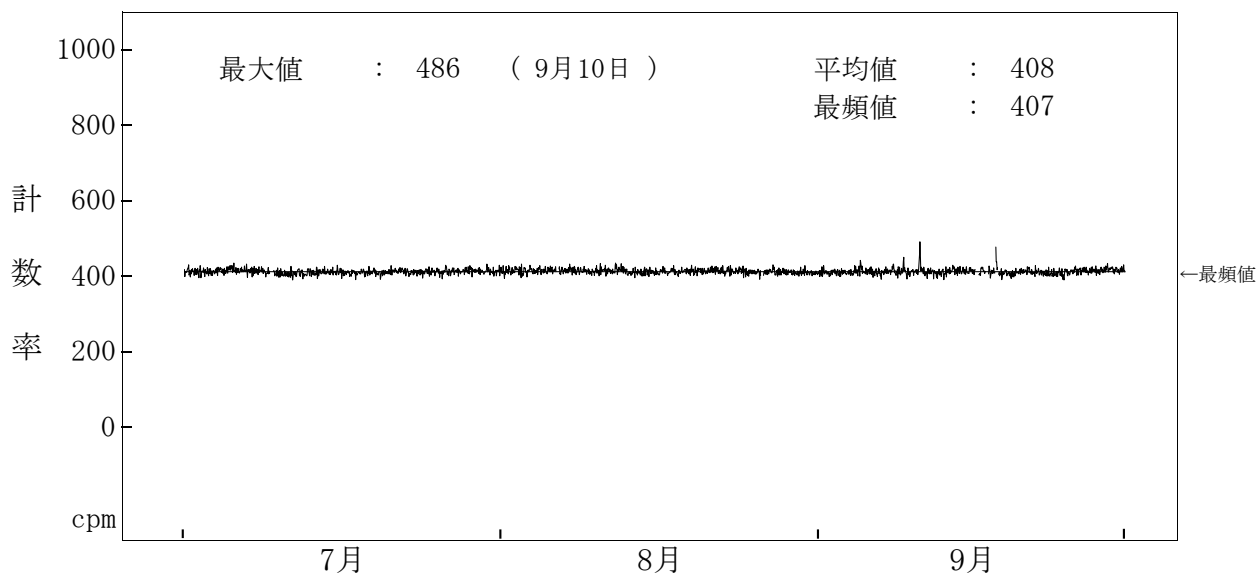


図－２－１３ 海水(放水)中の全ガンマ線計数率監視結果(1号機放水口モニター(B))

(注1) 8月5日の欠測は、定期点検によるものである。

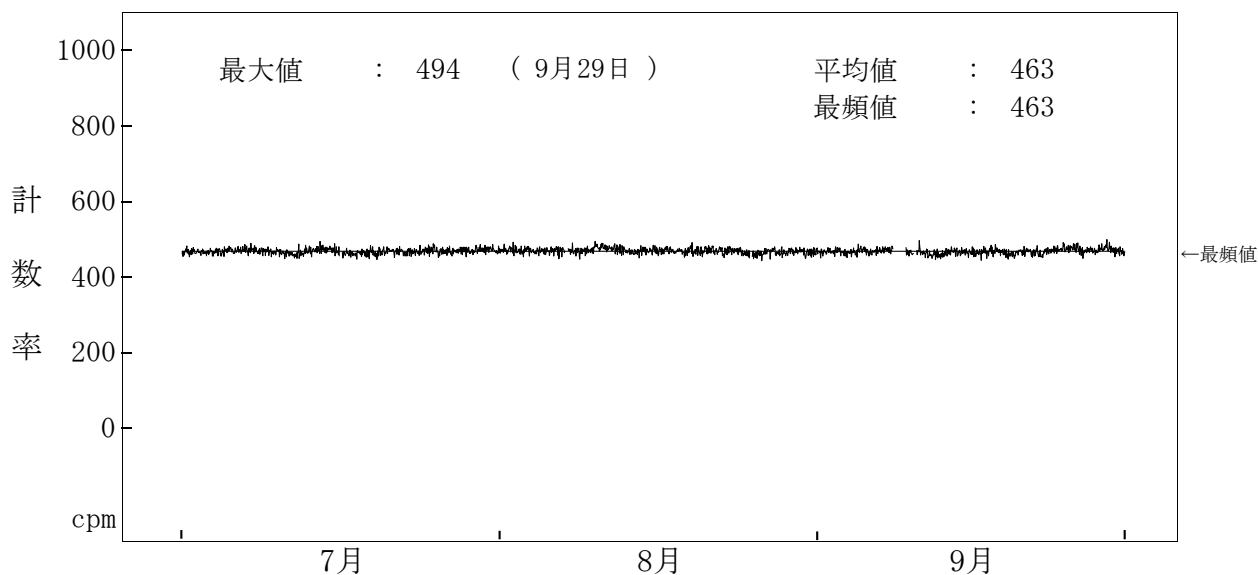
(注2) 9月3日～19日の計数率の上昇は、定期点検のため海水ポンプの流量が低下したことにより、放水口モニターを設置している放水立坑内上層部にある天然放射性核種を多く含む淡水層の影響を受けやすくなったことによるものと推定された。

令和7年度



図－２－１４ 海水(放水)中の全ガンマ線計数率監視結果(２号機放水口モニター)

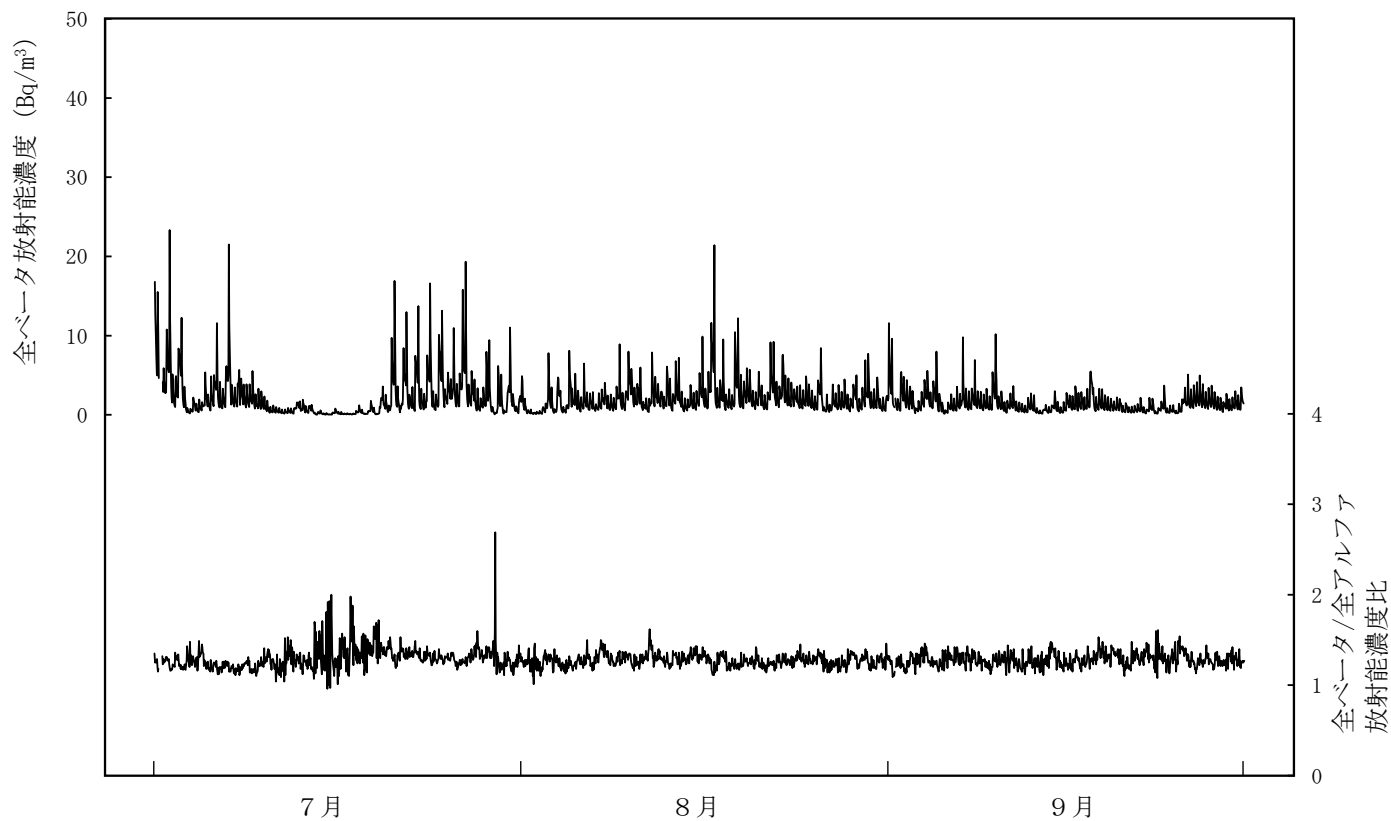
(注１) 7月9日、8月6日、8月26日、9月16日、9月17日及び9月18日の欠測は、定期点検によるものである。
(注２) 9月11日及び9月18日の上昇は、過去の事象(直近では令和7年3月16日)と同様に、降雨に伴い、放水立坑に流入した天然放射性核種を多く含んだ雨水及び放水立坑の表層に存在する天然放射性核種を多く含んだ淡水を水中ポンプが吸い込んだことによるものと推定された。



図－２－１５ 海水(放水)中の全ガンマ線計数率監視結果(３号機放水口モニター)

(注) 7月16日、8月7日、8月25日、9月8日～9月9日及び9月10日の欠測は、定期点検によるものである。

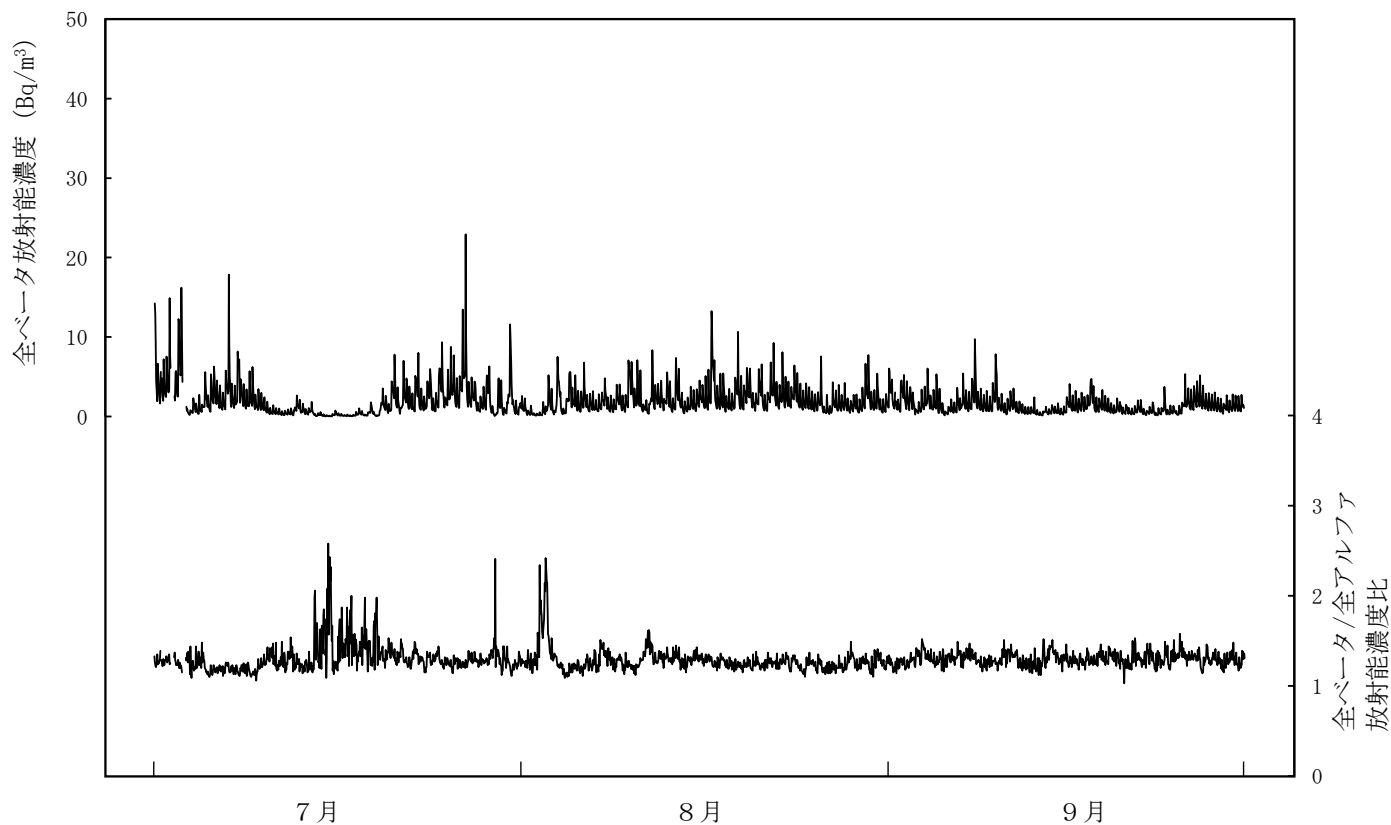
令和7年度



図－２－１６ 大気中の放射性物質の全ベータ放射能濃度及び
全ベータ／全アルファ放射能濃度比（飯子浜）

（注１） ７月１日の欠測は、定期点検によるものである。

（注２） ９月１日の欠測は、ろ紙交換によるものである。



図－２－１７ 大気中の放射性物質の全ベータ放射能濃度及び
全ベータ／全アルファ放射能濃度比（鮫浦）

（注） ７月２日及び３日の欠測は、定期点検によるものである。

(2) 周辺環境の保全の確認

空間ガンマ線量率等のレベル並びに放射性核種の濃度及び分布について調査した結果、女川原子力発電所の影響は認められなかった。

ア 電離箱検出器による空間ガンマ線量率

表－２－１に、モニタリングステーションにおける電離箱検出器による空間ガンマ線量率の測定結果を示す。福島第一原発事故前から測定している局においては、同事故前の測定値の範囲内であった。

イ 放射性物質の降下量

表－２－２及び表－２－３に、降下物中の対象核種のうち、Mn（マンガン）－54、Co（コバルト）－58、Fe（鉄）－59、Co-60、Cs-134、Cs-137について分析した結果を示す。なお、本期間における欠測はなかった。

分析の結果、Cs-137が検出されたが、これまでの推移や他の対象核種が検出されていないこと、女川原子力発電所の運転状況等から、福島第一原発事故の影響によるものと考えられる。

図－２－１８に昭和６１年度以降のCs-137に係る月間降下量、図－２－１９に同事故後のCs-137に係る四半期間降下量、図－２－２０に同事故後のCs-137に係る月間降下量及び図－２－２１に同事故後のCs-134に係る月間降下量について、それぞれの推移を示す。

ウ 環境試料の放射性核種濃度

人工放射性核種の分布状況や推移等を把握するため、降下物以外の種々の環境試料についても核種分析を実施した。なお、本期間における欠測はなかった。

表－２－４に迅速法による海水及びアラメのI（ヨウ素）－131の分析結果を示す。I-131は検出されなかった。

表－２－５に環境試料の核種分析結果の概要を示す。また、図－２－２２から図－２－３３には、福島第一原発事故後の各種環境試料中における人工放射性核種濃度の推移を示す。

対象核種については、ヨモギ、松葉、アイナメ、海水、海底土及びアラメの試料からCs-137が検出された。これらのうち、松葉、アイナメ、海水及びアラメについては、同事故前における測定値の範囲内であった。ヨモギ及び海底土については、同事故前における測定値の範囲を超過していたが、同事故の影響による高い測定値を除外した平成２８年度以降における測定値の範囲内であり、これまでの推移や他の対象核種が検出されていないこと、女川原子力発電所の運転状況等から、同事故の影響によるものと考えられる。

また、ヨモギ及びアラメの試料からはSr-90が検出されたが、同事故前における測定値の範囲内であり、これまでの推移から同事故と過去の核実験の影響によるものと考えられる。

これら以外の対象核種については、いずれの試料からも検出されなかった。

表－２－１ 空間ガンマ線量率測定結果（電離箱検出器による線量率）

種別	調査機関	局名	項目	7月	8月	9月	前年度までの測定値 ^{*1}	単位
							最小値～最大値	
							上段：平成22年度以前の値 ^{*2} 下段：平成23年度以降の値	
空間ガンマ線量率	宮城県	女川	平均値	67.5	68.3	66.7	53.7 ～ 103.3	nGy/h
			標準偏差	1.5	2.6	3.4		
			最大値	73.3	88.2	91.0	60.7 ～ 128.0	
			最小値	62.7	63.7	62.2		
		飯子浜 ^{*3}	平均値	82.8	83.9	83.2	—	
			標準偏差	1.5	2.6	3.6		
			最大値	88.0	105.5	111.6	72.0 ～ 117.8	
			最小値	77.6	78.4	77.9		
		小屋取	平均値	84.6	85.1	83.1	67.0 ～ 124.3	
			標準偏差	1.4	2.6	3.2		
			最大値	89.5	106.2	105.4	77.3 ～ 160.3	
			最小値	79.5	80.2	77.5		
		寄磯	平均値	77.0	77.0	76.3	61.2 ～ 105.0	
			標準偏差	1.4	2.5	3.3		
			最大値	82.4	100.3	103.5	58.8 ～ 141.3	
			最小値	72.4	71.3	71.0		
		鮫浦 ^{*3}	平均値	100.7	101.2	99.7	—	
			標準偏差	1.8	2.8	3.8		
			最大値	107.0	124.3	129.9	88.2 ～ 140.0	
			最小値	94.4	94.6	93.7		
		谷川 ^{*3}	平均値	82.5	83.6	82.5	—	
			標準偏差	1.3	2.6	3.5		
			最大値	87.4	109.8	113.5	76.2 ～ 121.8	
			最小値	78.2	78.9	77.9		
	荻浜 ^{*3}	平均値	89.7	90.6	89.5	—		
		標準偏差	1.3	2.5	3.4			
		最大値	93.9	112.6	116.0	83.7 ～ 127.7		
		最小値	85.1	85.6	84.7			
東北電力	塚浜	平均値	77.7	78.9	78.2	68.2 ～ 126.3		
		標準偏差	0.9	2.6	4.2			
		最大値	81.3	104.9	112.3	73.1 ～ 158.4		
		最小値	74.6	75.1	74.2			
	寺間	平均値	72.3	73.4	72.8	61.4 ～ 121.0		
		標準偏差	1.0	2.4	3.9			
		最大値	76.1	93.2	101.0	67.8 ～ 139.3		
		最小値	68.9	69.5	68.7			
	江島	平均値	63.0	64.0	63.7	56.4 ～ 103.3		
		標準偏差	0.8	2.6	3.5			
		最大値	66.0	92.0	95.1	59.2 ～ 127.5		
		最小値	60.5	60.6	60.5			
前網	平均値	82.4	83.3	82.3	69.7 ～ 126.3			
	標準偏差	1.0	2.3	3.2				
	最大値	86.3	106.7	110.5	77.4 ～ 165.2			
	最小値	79.1	79.6	78.3				

*1 小屋取は昭和57年度から、女川及び寄磯局は昭和58年度から、塚浜、寺間、江島及び前網局は昭和59年度からの測定値の範囲を示す。

*2 福島第一原発事故前後で区別して過去の測定値の範囲を示す。なお、震災の影響により、平成23年3月11日から平成23年4月～9月まで欠測が生じている（復旧時期は局により異なる）。

*3 震災で被災したモニタリングステーションを移転、再建し、平成31年4月から測定を開始した。

令和7年度

(参考) 広域モニタリングステーション^{*1}における空間ガンマ線量率測定結果
(電離箱検出器による線量率)

種別	調査機関	局名	項目	7月	8月	9月	前年度までの測定値*2 最小値～最大値	単位
空間ガンマ線量率	宮城県	石巻市	平均値	61.2	62.3	62.1	53.3 ～ 118.4	nGy/h
			標準偏差	1.3	2.7	3.6		
			最大値	65.0	83.3	90.0		
			最小値	58.3	58.3	58.3		
		雄勝市	平均値	62.5	63.7	63.0	56.7 ～ 141.7	
			標準偏差	1.3	2.5	5.3		
			最大値	71.7	88.3	105.0		
			最小値	58.3	58.3	58.3		
		河内町	平均値	59.3	59.9	59.5	51.7 ～ 143.4	
			標準偏差	1.2	3.2	4.3		
			最大値	63.3	95.0	93.3		
			最小値	55.0	55.0	55.0		
		河北町	平均値	62.7	63.7	63.6	53.3 ～ 128.3	
			標準偏差	1.4	2.9	3.9		
			最大値	70.0	95.0	93.3		
			最小値	56.7	58.3	58.3		
		北上市	平均値	76.7	77.4	75.2	66.7 ～ 141.7	
			標準偏差	1.7	2.9	4.4		
			最大値	83.3	111.7	110.0		
			最小値	71.7	71.7	70.0		
		鳴瀬市	平均値	55.8	57.1	56.8	51.7 ～ 130.0	
			標準偏差	1.2	3.5	4.5		
			最大値	61.7	91.7	90.0		
			最小値	51.7	53.3	51.7		
		南郷町	平均値	60.2	60.5	61.3	53.3 ～ 153.3	
			標準偏差	1.5	3.2	4.9		
			最大値	66.7	86.7	100.0		
			最小値	56.7	55.0	56.7		
涌谷町	平均値	57.7	58.5	58.6	51.7 ～ 146.7			
	標準偏差	1.3	2.7	4.1				
	最大値	68.3	80.0	90.0				
	最小値	53.3	53.3	55.0				
津山市	平均値	62.5	63.4	63.1	55.0 ～ 128.3			
	標準偏差	1.8	2.8	4.3				
	最大値	70.0	101.7	96.7				
	最小値	58.3	58.3	58.3				
志津川町	平均値	62.8	63.3	62.3	56.7 ～ 126.7			
	標準偏差	1.4	2.7	4.7				
	最大値	71.7	95.0	98.3				
	最小値	58.3	58.3	56.7				

*1 広域モニタリングステーションとは、原子力規制委員会「原子力災害対策指針（平成24年10月31日制定）」に示された「緊急防護措置を準備する区域（UPZ）」内に県が新たに設置したモニタリングステーションをいう。

*2 平成25年度からの測定値の範囲を示す。

令和7年度

表－２－２ 月間降下物（雨水・ちり）中の放射性核種分析結果*1

核種	令和 7 年度第 2 四半期測定値 *2		前年度までの測定値 *3,4				単位
			(上段) 平成 2 年度～平成 2 3 年 2 月 (下段) 平成 2 8 年度～令和 6 年度		(参考) 福島第一原発事故 後 5 年間の最大値*6		
	試料数	最小値～最大値	試料数	最小値～最大値			
Mn- 54	9	N D	749	N D N D		N D	Bq/m
Co- 58		N D		N D N D		N D	
Fe- 59		N D		N D N D		N D	
Co- 60		N D	324	N D N D		N D	
Cs-134		N D		N D N D～0. 57		9329	
Cs-137		N D～0. 14		N D～0. 14 N D～6. 93		9248	

*1 NDは検出下限値未満であることを示す。

*2 女川町浦宿浜(女川オフサイトセンター)、小屋取及び牡鹿ゲートにおける測定値を示し、対照地点（仙台市宮城野区幸町(環境放射線監視センター)）の測定値を除く。

*3 女川町浦宿浜(女川宿舎及び女川オフサイトセンター)、旧原子力センター（女川）、小屋取及び牡鹿ゲートにおける測定値の範囲を示し、対照地点（保健環境センター、旧原子力センター（仙台）及び仙台市宮城野区幸町(環境放射線監視センター)）の測定値を除く。

*4 測定値の範囲は福島第一原発事故の前後に分けて示し、同事故後は同事故の影響による高い測定値を除外した平成２８年度以降における測定値の範囲を示す。

*5 平成２３年３月～平成２７年度における最大値を示す。

表－２－３ 四半期間降下物（雨水・ちり）中の放射性核種分析結果*1

核種	令和 7 年度第 2 四半期測定値 ^{*2}		前年度までの測定値 ^{*3,4}		単位	
			(上段) 平成 1 1 年度～平成 2 2 年 1 2 月 (下段) 平成 2 8 年度～令和 6 年度	(参考) 福島第一原発事故 後 5 年間の最大値 ^{*5}		
	試料数	最小値～最大値	試料数	最小値～最大値		
Mn- 54	5	N D	231	N D N D	N D	Bq/m ²
Co- 58		N D		N D N D	N D	
Fe- 59		N D		N D N D	N D	
Co- 60		N D	180	N D N D	N D	
Cs-134		N D		N D N D～3. 3	8615	
Cs-137		N D～0. 28		N D～0. 20 N D～21. 5	8438	

*1 NDは検出下限値未満であることを示す。

*2 飯子浜、鮫浦、谷川浜、塚浜及び付替県道における測定値を示す。

*3 飯子浜、鮫浦、谷川浜、尾浦、渡波、大原、塚浜及び付替県道における測定値を示す。

*4 測定値の範囲は福島第一原発事故の前後に分けて示し、同事故後は同事故の影響による高い測定値を除外した平成２８年度以降における測定値の範囲を示す。

*5 平成２３年１月～平成２７年度における最大値を示す。

表ー２ー４ 迅速法による海水、アラメ及びエゾノネジモク中の I-131 分析結果^{*1}

試料名	採取海域	令和7年度 第2四半期測定値		前年度までの測定値 ^{*2}			単位
				(上段) 平成18年度～平成22年度 (下段) 平成28年度～令和6年度		(参考) 福島第一原発事故 後5年間の最大値 ^{*3}	
		試料数	最小値～最大値	試料数	最小値 ～ 最大値		
海水	放水口付近	3	N D	31 108	N D N D	N D	mBq/L
アラメ	放水口付近	1	N D	52 20	N D～0.30 N D	N D	Bq/kg 生
	前面海域	1	N D	24 20	N D～0.13 N D～0.10	1.34	
	周辺海域	1	N D	20 16	N D～0.13 N D～0.11	0.11	
	対照海域	3	N D	62 57	N D～0.47 N D～1.14	0.41	
エゾノ ネジモク	放水口付近			— 12	— N D	—	Bq/kg 生
	前面海域			— 12	— N D	—	
	周辺海域			— 11	— N D～0.17	—	
	対照海域			— 32	— N D～0.23	—	

*1 NDは検出下限値未満であることを示す。

*2 海水については平成20年度以降の測定値の範囲を、アラメについては平成18年7月以降の測定値の範囲を、エゾノネジモクについては令和元年度以降の測定値の範囲を、福島第一原発事故の前後に分けて示し、同事故後は同事故の影響による高い測定値を除外した平成28年度以降における測定値の範囲を示す。

*3 平成23年度～平成27年度における最大値を示す。

表－２－５ 環境試料の核種分析結果*1

対象物	試料名	核種	令和 7 年度第 2 四半期測定値			前年度までの測定値*2		単位
						(上段) 平成 2 年度～平成 2 2 年度 (下段) 平成 2 8 年度～令和 6 年度	(参考) 福島第一原発 事故後 5 年間 の最大値*3	
			試料数	最小値	～ 最大値	最小値	～ 最大値	
農 産 物	精 米	Sr-90				N D	～ 0.0089 *4	Bq/kg生
		Cs-137				N D	～ 0.035 *4 N D 0.112	
	大 葉	Cs-137				N D	～ 0.085 N D 0.165	Bq/kg生
		Cs-137				N D	～ 0.015 N D 0.023	Bq/kg生
陸 水	水道原水 (飲料水)	H-3	2	N D		N D	～ 3200 N D 450	mBq/L
		Cs-137	3	N D		N D	～ 8.5	
陸 土	未 耕 土	Sr-90				1.3	～ 1.6 *5 1.0 1.2	Bq/kg乾土
		Cs-137				N D	～ 13.1 *5 18.5 317	
浮遊じん	浮遊じん	Cs-137	14	N D		N D	～ 0.015	mBq/m ³
指 標 植 物	ヨモギ	Sr-90	2	0.12	～ 0.42	0.065	～ 1.00 0.088 0.43	Bq/kg生
		Cs-137	2	0.58	～ 0.82	N D	～ 0.17 0.29 2.64	
	松 葉	Sr-90				0.86	～ 1.83 0.71 1.28	Bq/kg生
		Cs-137	1	0.154		N D	～ 0.74 0.143 2.33	
魚 介 類	アイナメ	Sr-90	1	N D		N D	～ 0.011 N D	Bq/kg生
		Cs-137	1	0.16		0.062	～ 0.21 0.11 0.21	
	マガキ	Sr-90				N D	～ 0.058 N D 0.10	Bq/kg生
		Cs-137				N D	～ 0.058 N D 0.10	
	マボヤ	Sr-90	1	N D		N D	～ 0.054 N D 0.53	Bq/kg生
		Cs-137	1	N D		N D	～ 0.053 N D 0.082	
	エゾアワビ	Cs-137				N D	～ 0.063 *6 N D 0.20	Bq/kg生
	キタムラサキウニ	Cs-137	1	N D		0.035	～ 0.063 *6 0.035 0.20	Bq/kg生
海 藻	ワカメ	Sr-90				N D	～ 0.081 N D 0.062	Bq/kg生
		Cs-137				N D	～ 0.080 N D 0.15	
海 水	表 層 水	H-3	2	N D		N D	～ 670 N D	mBq/L
		Sr-90				N D	～ 2.9 N D 2.8	
		Cs-137	2	2.0	～ 3.0	N D	～ 4.1 N D 4.2	
海 底 土	表 層 土 (砂)	Sr-90				N D	～ 2.6 N D 47.2	Bq/kg乾土
		Cs-137	2	N D ～ 8.0		N D	～ 2.6 N D 47.2	
指 標 海 産 物	ア ラ メ	Sr-90	2	N D	～ 0.027	N D	～ 0.073 N D 0.046	Bq/kg生
		Cs-137	3	N D	～ 0.062	N D	～ 0.16 N D 0.16	
	エゾノ ネジモク	Sr-90				N D	～ 0.061 *7	Bq/kg生
		Cs-137				N D	～ 0.13 *7	
	ムラサキ イガイ	Sr-90	1	N D		N D	～ 0.096 N D 0.122	Bq/kg生
		Cs-137	1	N D		N D	～ 0.096 N D 0.122	

*1 Cs-137、Sr-90及びH-3の測定値を示し、対照地点で採取された試料並びに迅速法による海水、アラメ及びエゾノネジモクの測定値を除く。なお、NDは検出下限値未満であることを示す。

*2 測定値の範囲は福島第一原発事故の前後に分けて示し、同事故後は同事故の影響による高い測定値を除外した平成 2 8 年度以降における測定値の範囲を示す。

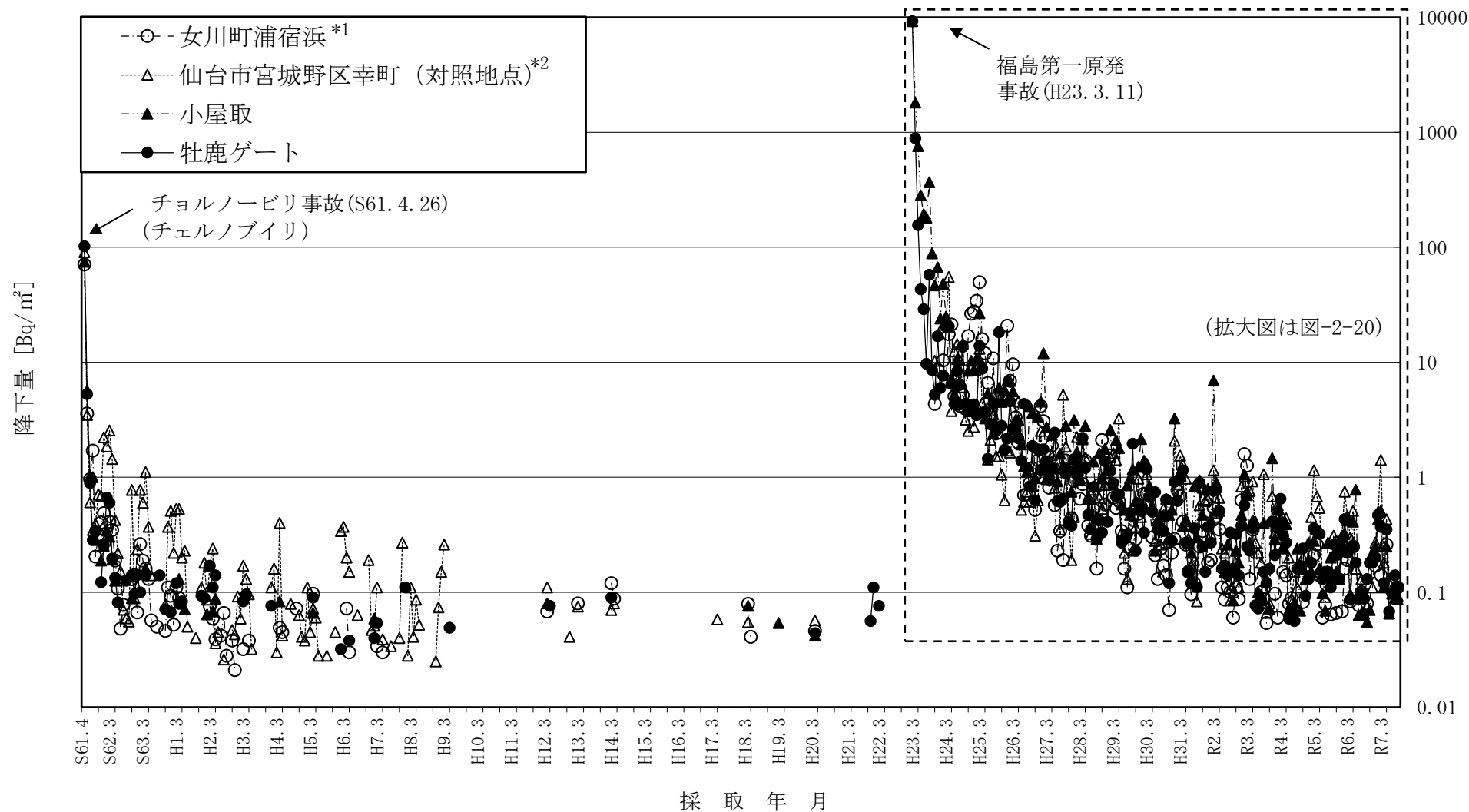
*3 平成 2 3 年度～平成 2 7 年度における測定値の最大値を示す。

*4 平成 1 1 年度の測定基本計画変更によって測定地点が谷川浜のみとされたため、精米の平成 2 年度～平成 2 2 年度については谷川浜における測定値の範囲を示す。

*5 平成 2 1 年度の測定実施計画変更によって測定地点が変更されたため、平成 2 1 年度～平成 2 2 年度における測定値の範囲を示す。

*6 平成 1 1 年度の測定基本計画変更によって追加された試料であるため、平成 1 1 年度～平成 2 2 年度における測定値の範囲を示す。

*7 令和元年度の測定基本計画変更によって追加された試料であるため、令和元年度以降における測定値の範囲を示す。

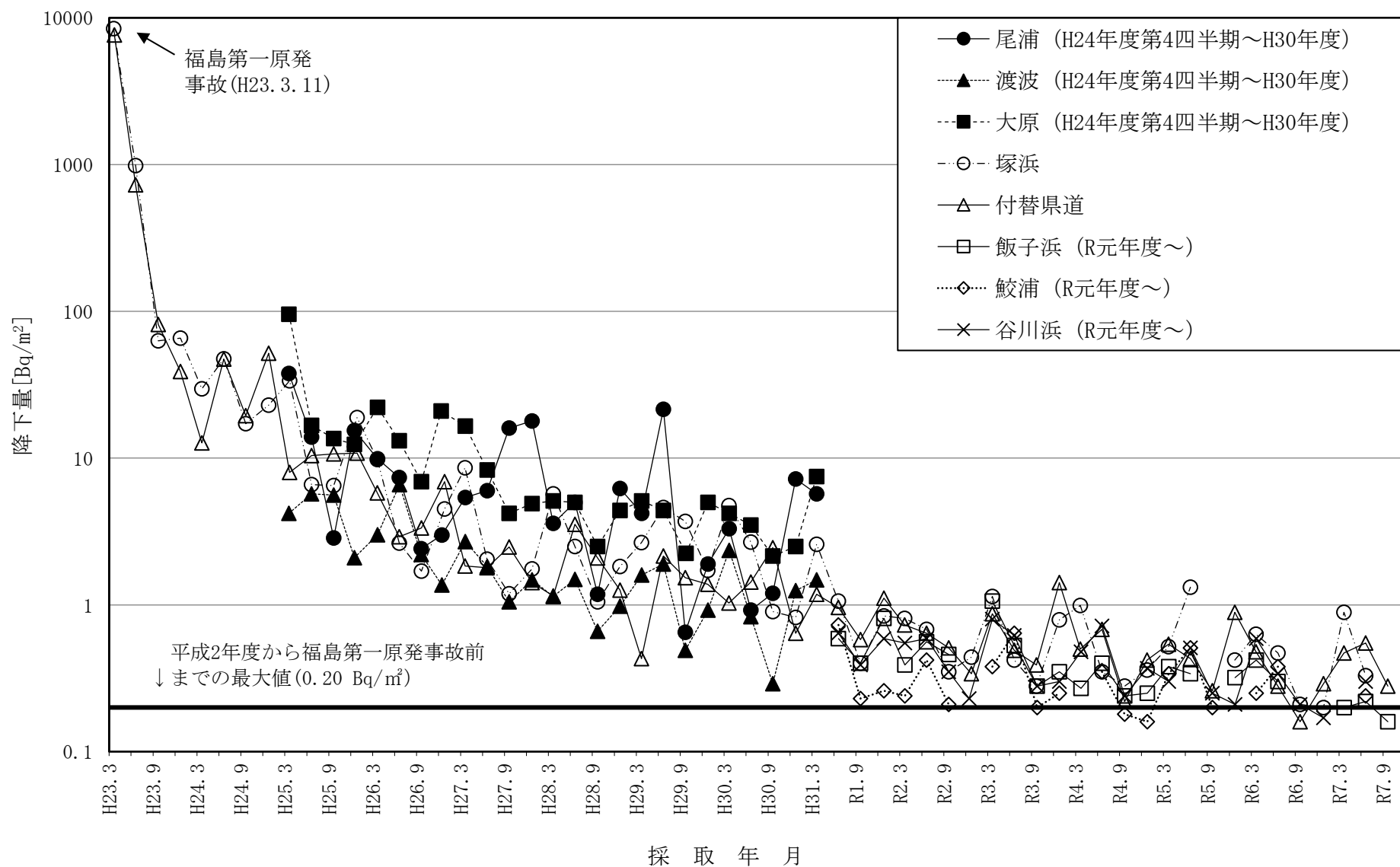


図－２－１８ Cs-137の月間降下量の推移

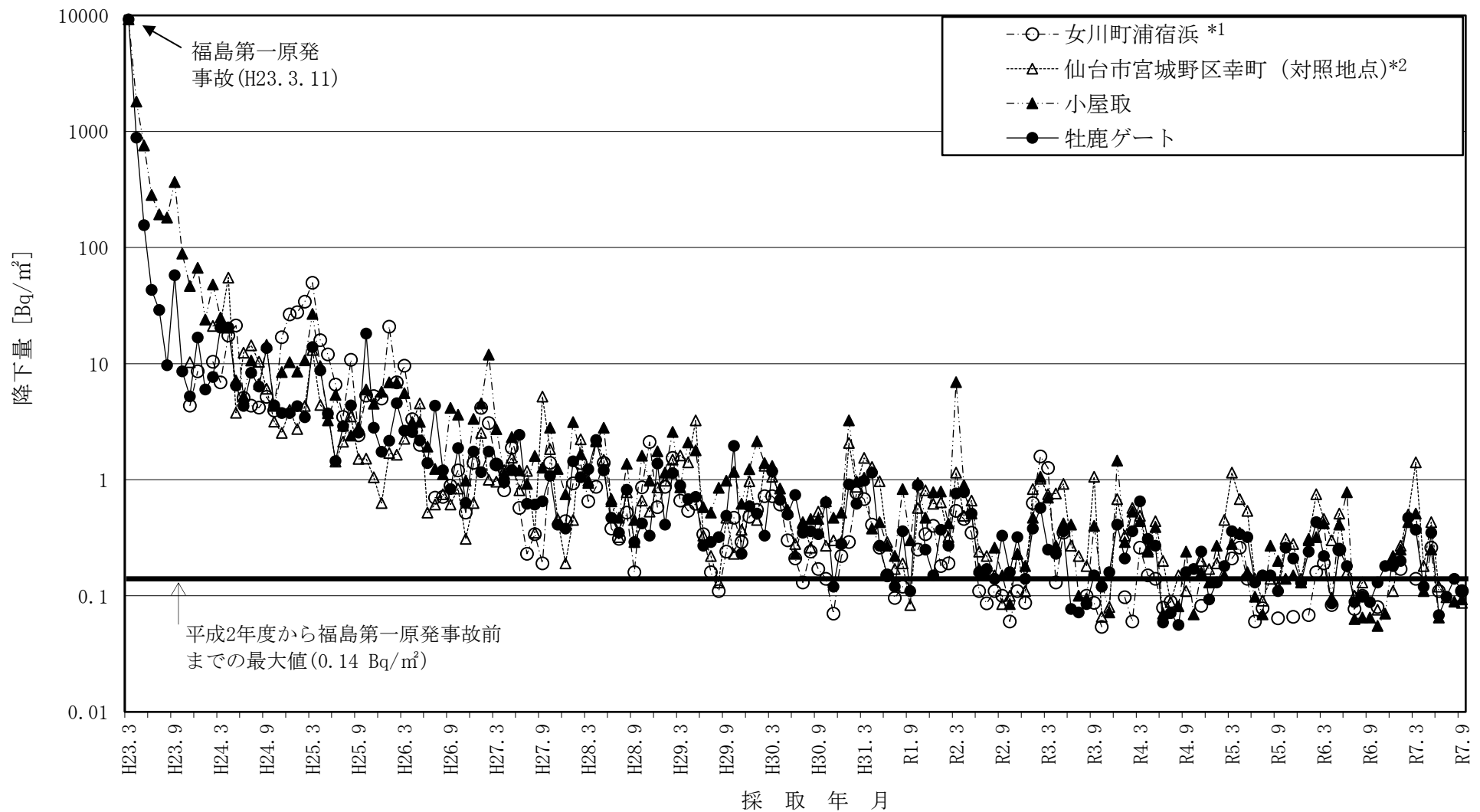
*1 平成23年8月10日以降、採取地点を女川町女川浜の旧原子力センターから同町浦宿浜の女川宿舎に変更している。

また、令和3年4月1日以降、採取場所を女川町浦宿浜地内の女川宿舎から女川オフサイトセンターに変更している。

*2 平成24年8月30日以降、採取地点を仙台市宮城野区幸町の保健環境センターから仙台市宮城野区安養寺の原子力センターに、平成27年3月30日以降、同区幸町の環境放射線監視センターに変更している。なお、平成9年4月1日に、仙台市宮城野区幸町の保健環境センターにおける採取場所を建物屋上から前庭地上へ変更した。



図－2－19 Cs-137の四半期間降下量の推移

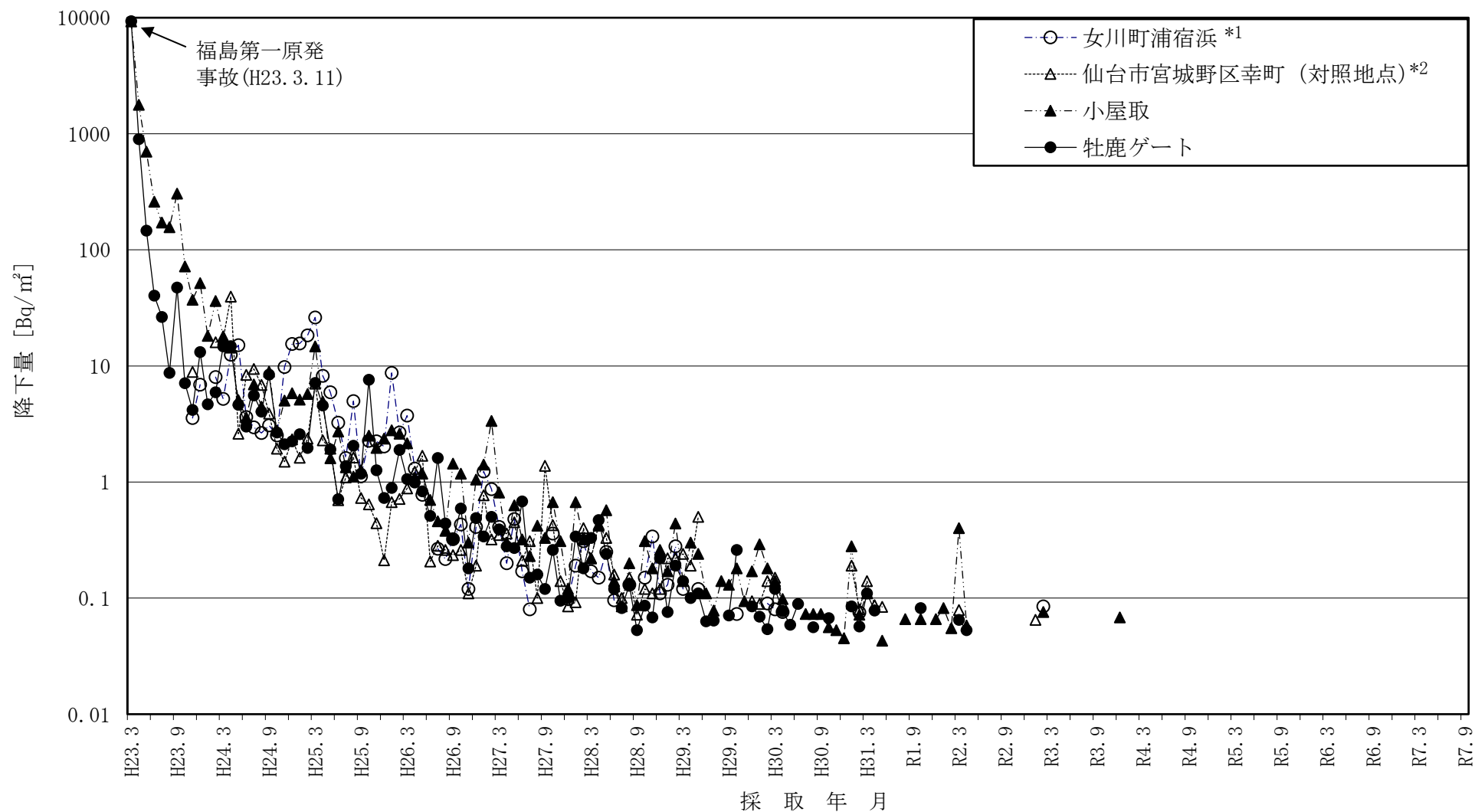


図－２－２０ 福島第一原発事故後のCs-137の月間降下量の推移

*1 平成23年8月10日以降、採取地点を女川町女川浜の旧原子力センターから同町浦宿浜の女川宿舎に変更している。

また、令和3年4月1日以降、採取場所を女川町浦宿浜地内の女川宿舎から女川オフサイトセンターに変更している。

*2 平成24年8月30日以降、採取地点を仙台市宮城野区幸町の保健環境センターから仙台市宮城野区安養寺の原子力センターに、平成27年3月30日以降、同区幸町の環境放射線監視センターに変更している。

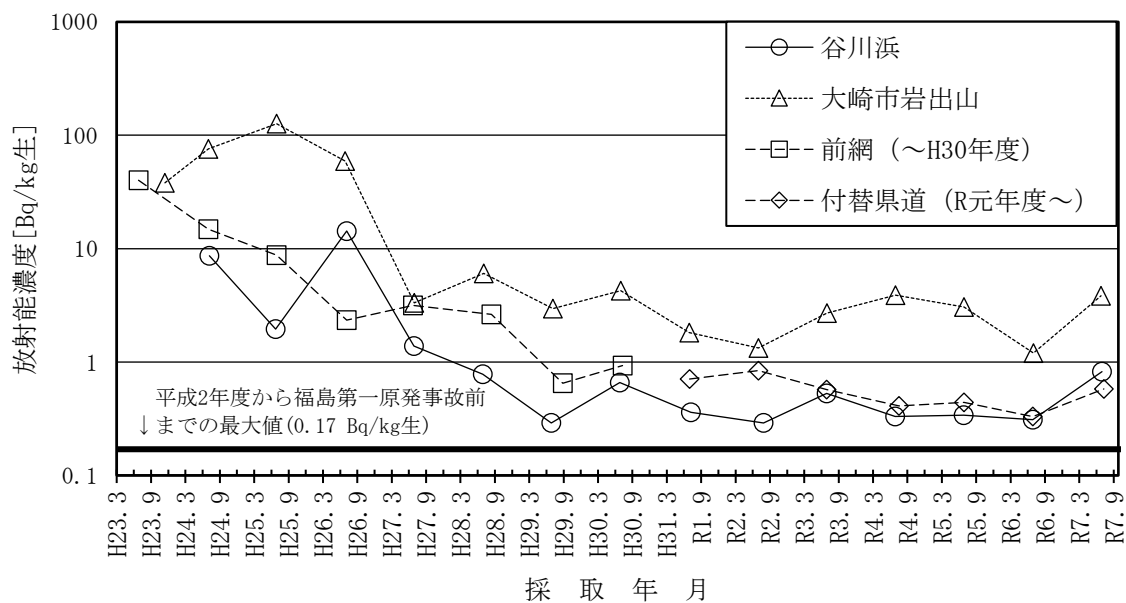


図－２－２１ 福島第一原発事故後のCs-134の月間降下量の推移

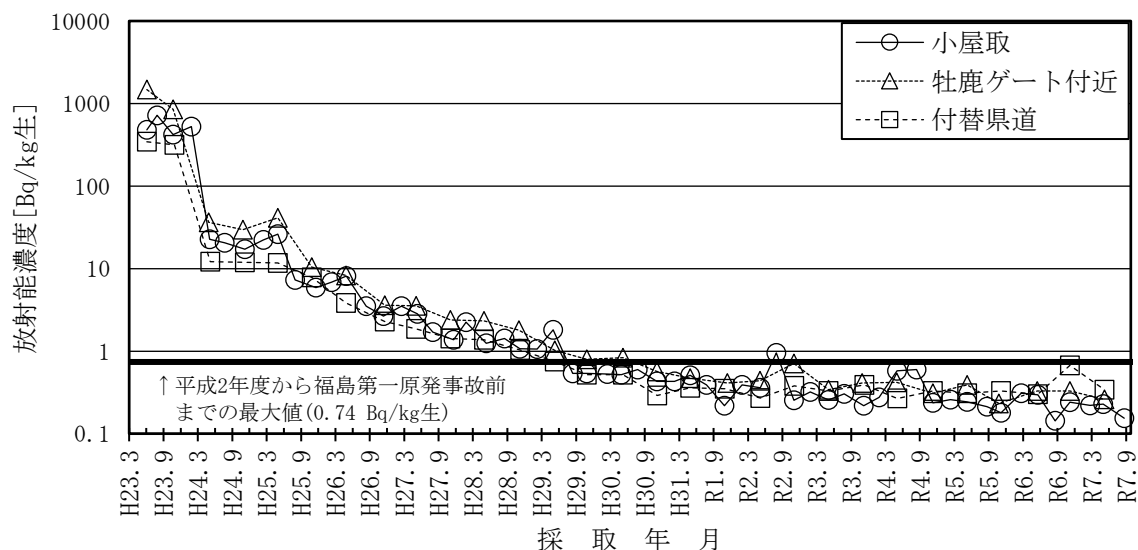
*1 平成２３年８月１０日以降、採取地点を女川町女川浜の旧原子力センターから同町浦宿浜の女川宿舎に変更している。

また、令和３年４月１日以降、採取場所を女川町浦宿浜地内の女川宿舎から女川オフサイトセンターに変更している。

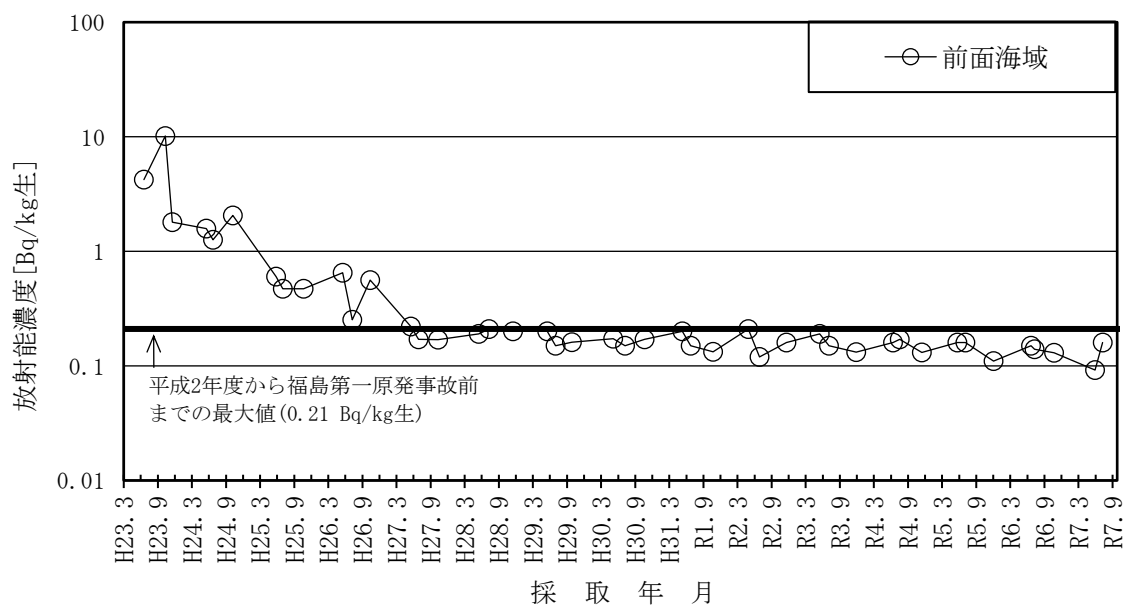
*2 平成２４年８月３０日以降、採取地点を仙台市宮城野区幸町の保健環境センターから仙台市宮城野区安養寺の原子力センターに、平成２７年３月３０日以降、同区幸町の環境放射線監視センターに変更している。



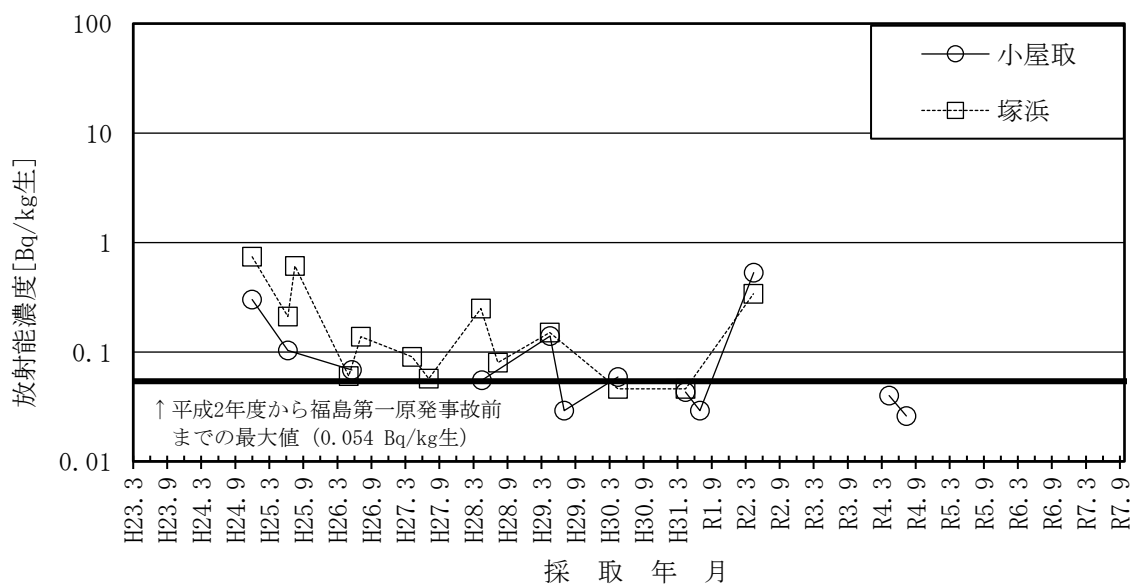
図－２－２２ ヨモギのCs-137濃度の推移



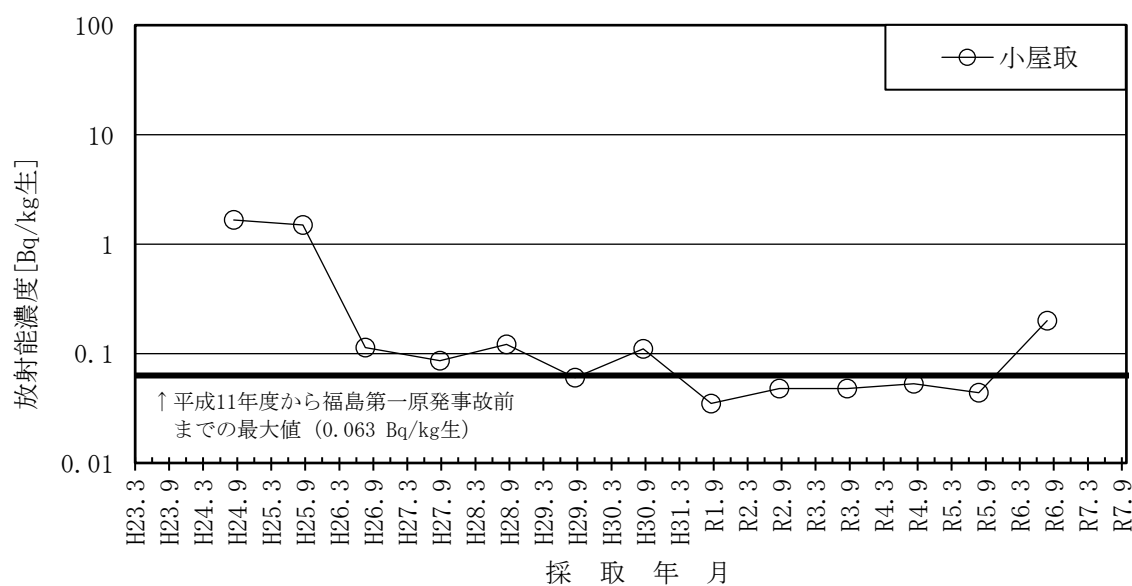
図－２－２３ 松葉のCs-137濃度の推移



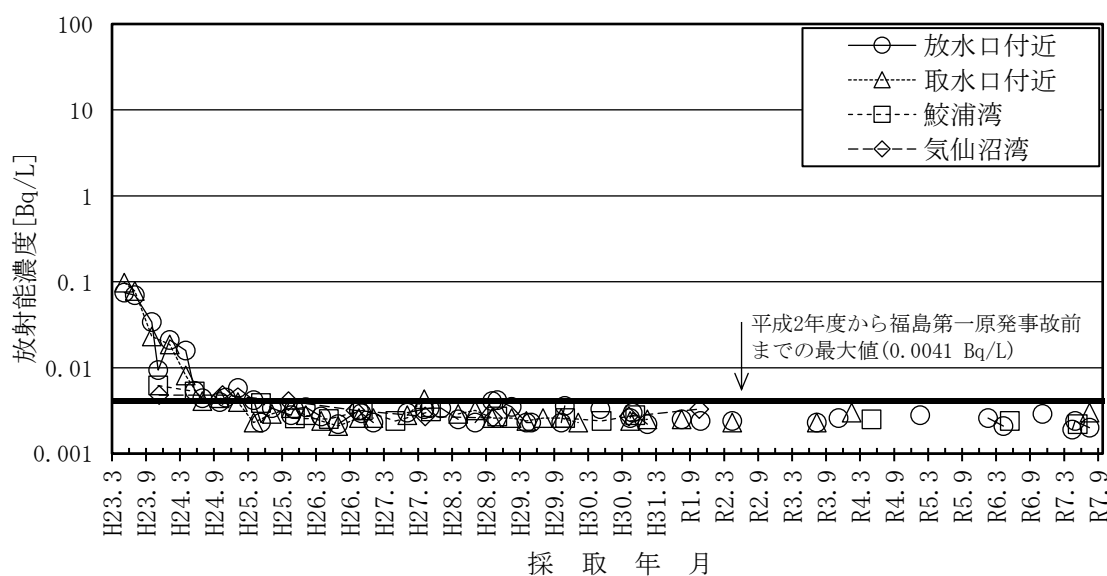
図－２－２４ アイナメのCs-137濃度の推移



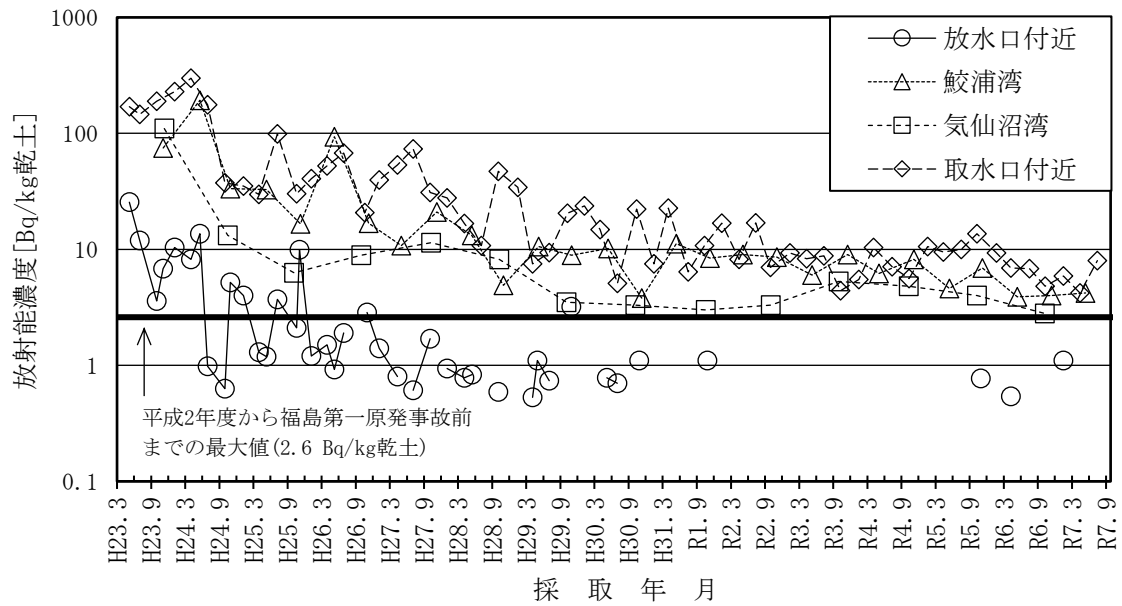
図－２－２５ マボヤのCs-137濃度の推移



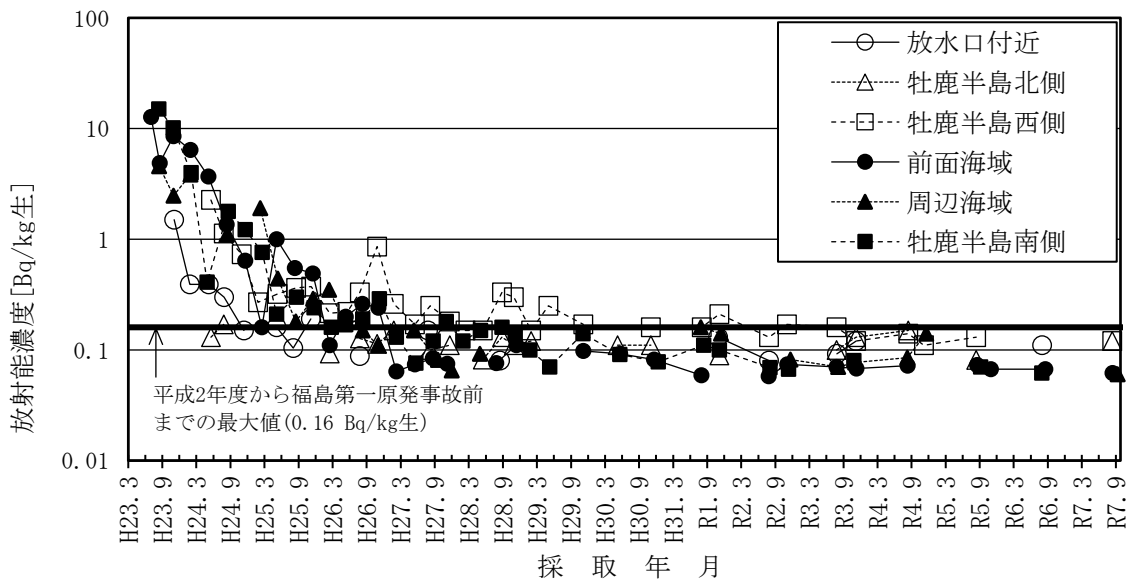
図－２－２６ キタムラサキウニのCs-137濃度の推移



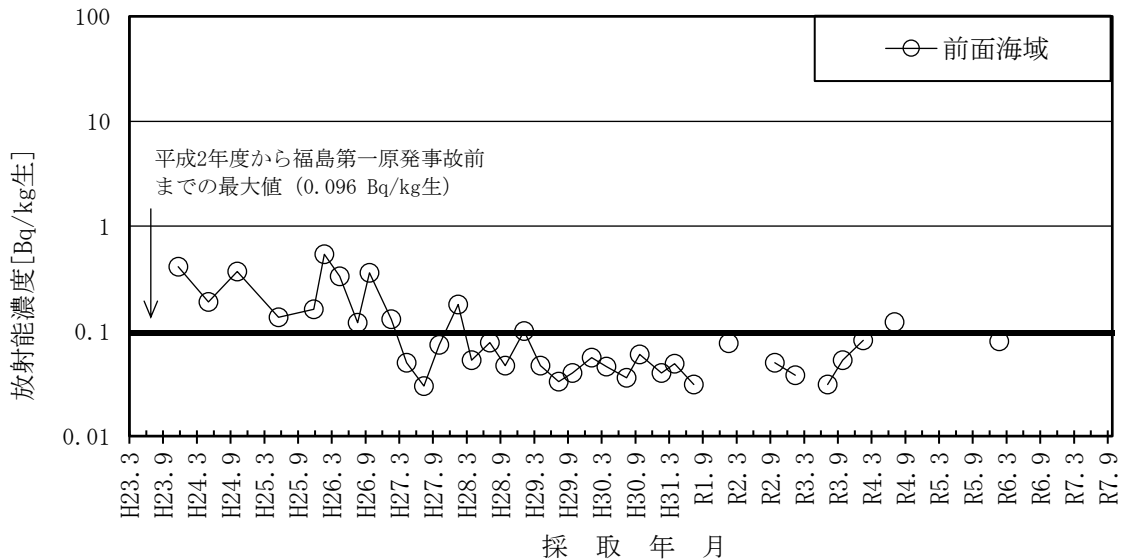
図－２－２７ 海水のCs-137濃度の推移



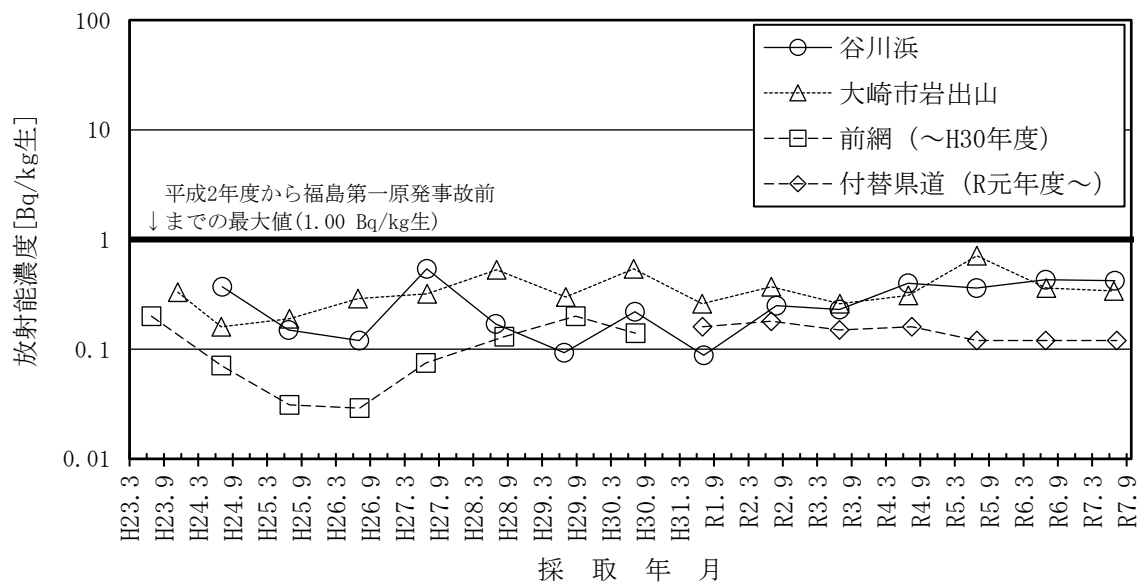
図－２－２８ 海底土のCs-137濃度の推移



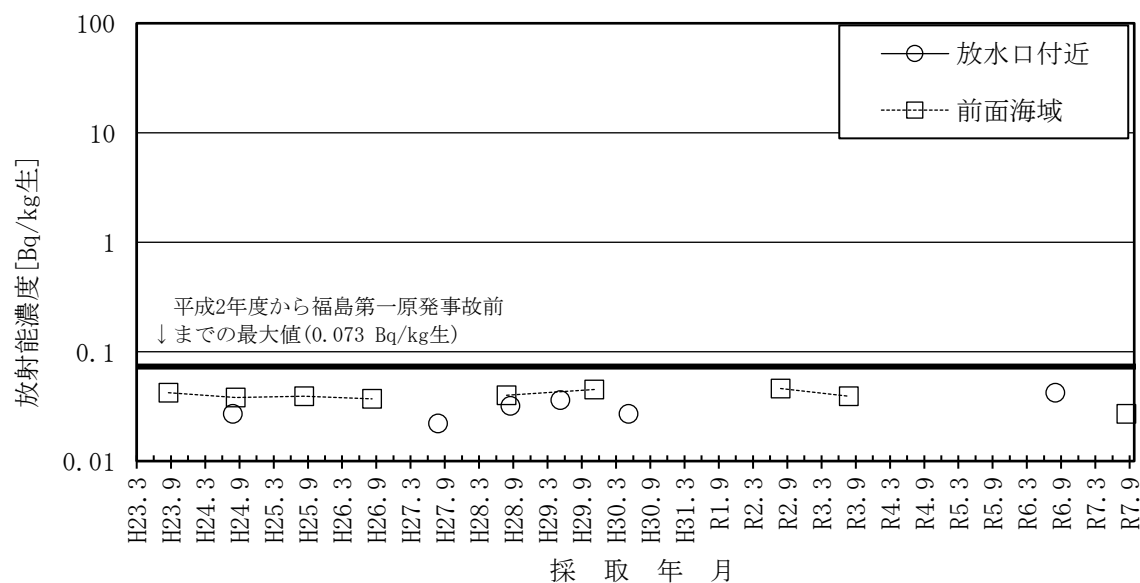
図－２－２９ アラメのCs-137濃度の推移



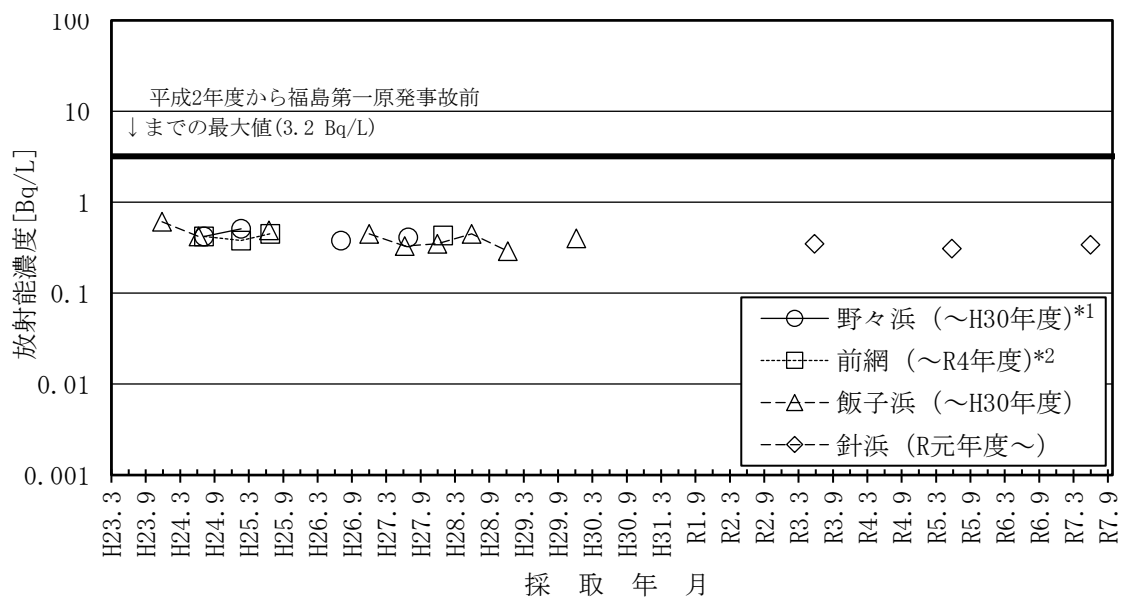
図－２－３０ ムラサキガイのCs-137濃度の推移



図－２－３１ ヨモギのSr-90濃度の推移



図－２－３２ アラメのSr-90濃度の推移



図－２－３３ 陸水のH-3濃度の推移

*1 令和元年度以降、採取地点を野々浜から女川浜に変更している。

*2 令和5年度以降、採取地点を前網から泊浜に変更している。